

(8) 図書館

1) 施設概要

① 設置目的

図書館法及び国立市図書館条例に基づき、市民の読書要求にこたえ、自由で公平な資料の提供によって、市民の自己教育と文化活動に資することを目的に設置しています。



中央図書館

② 施設一覧

本市では、中央図書館のほか、地区図書館としての北市民プラザ図書館、5箇所の分室を設置しています。

隣接自治体（立川市、国分寺市、府中市）と協定を結んでおり、市民が相互利用できます。また、平成27年2月から新システムの導入によりスマートフォンでの検索等ができるようになりました。

施設一覧

施設名	所在地	延床面積 (㎡)	建築 年度 (年度)	構造 (主たる建物)	併設		
					コミュニティ 関連	トレーニング 室	プラザ
中央図書館	富士見台 2-34	1511.0	昭和 49	RC 造			
北市民プラザ図書館	北 3-1-1	570.0 (1399.2)	平成 9	SRC 造	●		●
下谷保分室	谷保 5066	31.6 (259.7)	昭和 59	RC 造	●		
青柳分室	青柳 244	25.0 (607.0)	昭和 50	RC 造	●		
東分室	東 3-18-32	102.3 (446.9)	昭和 53	RC 造	●		
谷保東分室	谷保 135-1	41.0 (196.4)	平成 3	RC 造	●		
南市民プラザ分室	泉 2-3-2	535.0 (1699.9)	平成 9	SRC 造	●	●	●

③ 事業内容

収蔵する図書、雑誌、新聞、地域資料、視聴覚資料の閲覧・貸出のほか、資料に関する相談やレファレンス業務を行っています。また、「お話の時間」や「絵本の時間」などの行事も開催しています。

④ 開館時間等（平成 26 年度）

中央図書館の開館日数は例年300日程度ですが、平成26年度は耐震改修工事の期間中（7月1日から12月2日まで）休館していたため、開館日数が165日（※）と少なくなっています。

施設名	開館時間	休館日	開館日数
中央図書館	平日：午前 9 時 30 分から午後 7 時まで 土日祝：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで	火 年末年始	1 6 5 日（※）
北市民プラザ 図書館	午前 9 時 30 分から午後 5 時まで 水：午前 9 時 30 分から午後 7 時まで	火 年末年始	2 9 5 日
下谷保分室	午後 2 時から午後 5 時まで	火・水・木 土・日 年末年始	9 1 日
青柳分室	午後 2 時から午後 5 時まで	月・火・木 土・日 年末年始	1 1 9 日
東分室	午後 2 時から午後 5 時まで 金土：午前 10 時から午後 5 時まで	月・火 年末年始	2 4 3 日
谷保東分室	午後 2 時から午後 5 時まで	月・火・木 土・日 年末年始	1 0 9 日
南市民プラザ分室	午後 2 時から午後 5 時まで 土日・学校の休業期間：午前 10 時から午後 5 時まで	火 年末年始	2 8 6 日

⑤ 利用方法

国立市に在住・在勤・在学されている方は、「くにたち図書利用カード」を作ることにより、図書を借りることができます。貸出期間は3週間で、貸出冊数は図書・雑誌 10 冊、CD 2 セット、カセットテープ 2 点までとなっています。

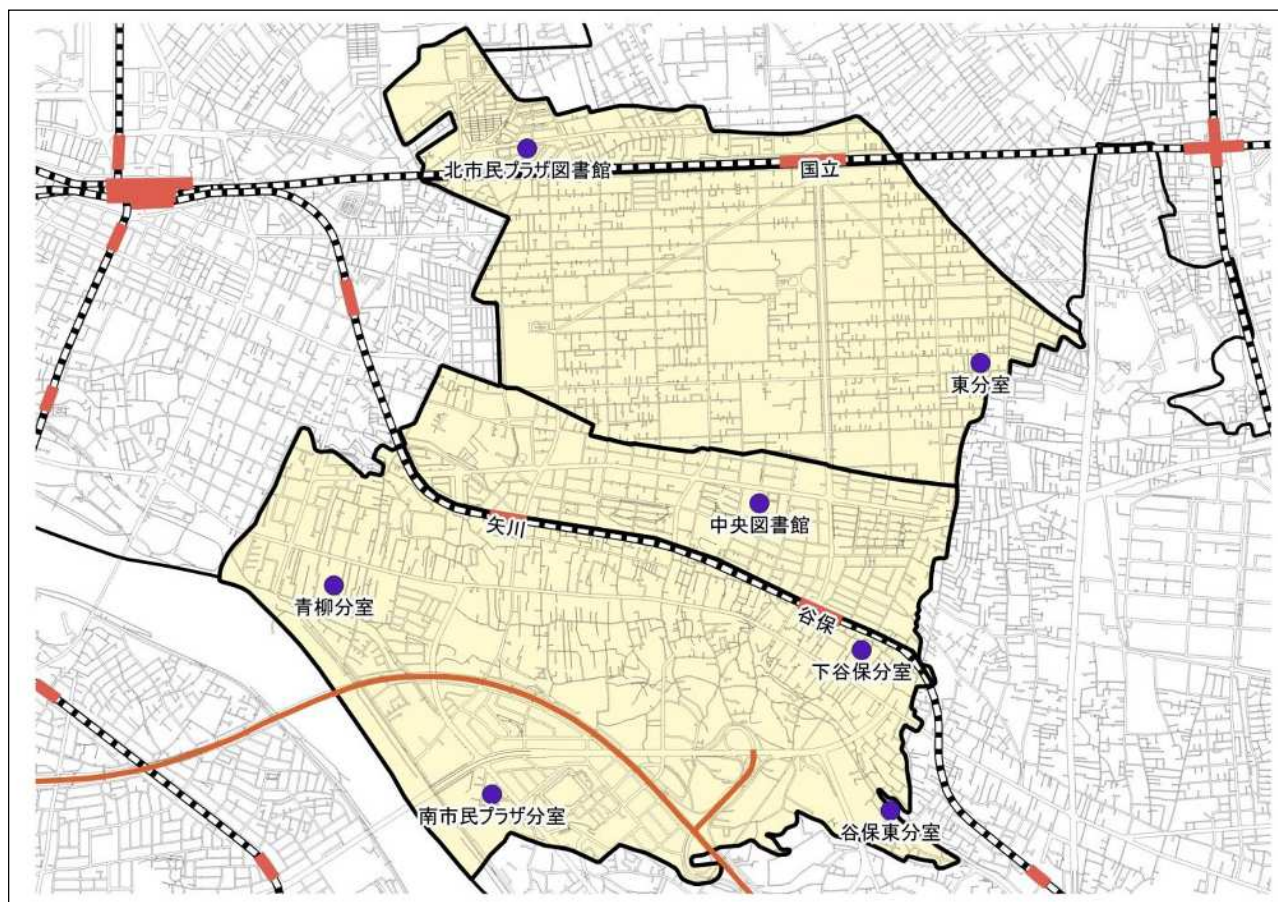
相互利用協定を結んでいるため、国分寺市、府中市、立川市にお住まいの方も国立市の図書館を利用することができます。

また、インターネットで蔵書検索や予約をすることもできます。

⑥ 配置状況

富士見台地域には中央図書館が、北地域には北市民プラザ図書館が設置されています。また、東・中・西地域には東福祉館内に分室が併設されており、南部地域には青柳福祉センター、下谷保地域防災センター、谷保東集会所、南市民プラザにそれぞれ分室が併設されています。

図書館位置図



⑦ 図書館資料数

平成 26 年度における図書館の蔵書等資料数は約 39 万点です。その内訳をみると、一般書が約 29 万点で全体の約 74%を占めており、次いで児童書が約 10 万点となっています。

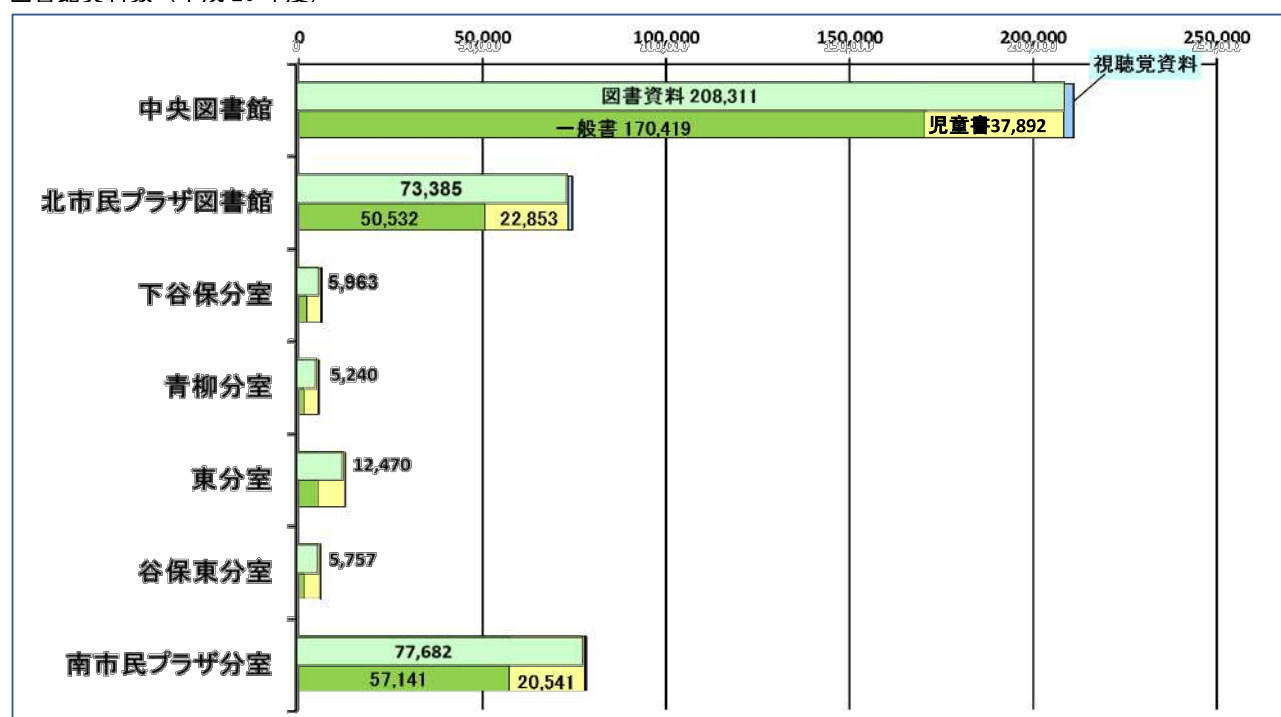
図書館資料数を施設別にみると、中央図書館が約 21 万点で、全体の約 54%を占めています。

図書館資料数（平成 26 年度）

（単位：点）

	図書資料		その他		合 計
	一般書	児童書	視聴覚資料	新聞・雑誌類	
中央図書館	170,419	37,892	2,641	195	211,147
北市民プラザ図書館	50,532	22,853	868	95	74,348
下谷保分室	2,045	3,918	0	13	5,976
青柳分室	1,200	4,040	0	12	5,252
東分室	5,148	7,322	0	25	12,495
谷保東分室	1,267	4,490	0	19	5,776
南市民プラザ分室	57,141	20,541	308	33	78,023
合 計	287,752	101,056	3,817	392	393,017
構成比	73%	26%	1%	0%	100%

図書館資料数（平成 26 年度）



⑧ スペース構成

図書館の規模をみると、中央図書館が 1,511 ㎡、北市民プラザ図書館が 570 ㎡、南市民プラザが 535 ㎡、その他の分室は約 25 ㎡～約 100 ㎡となっています。

スペース構成の特徴として、中央図書館は図書室のほか、地域・参考資料室や書庫、お話し室や朗読室などを備えています。

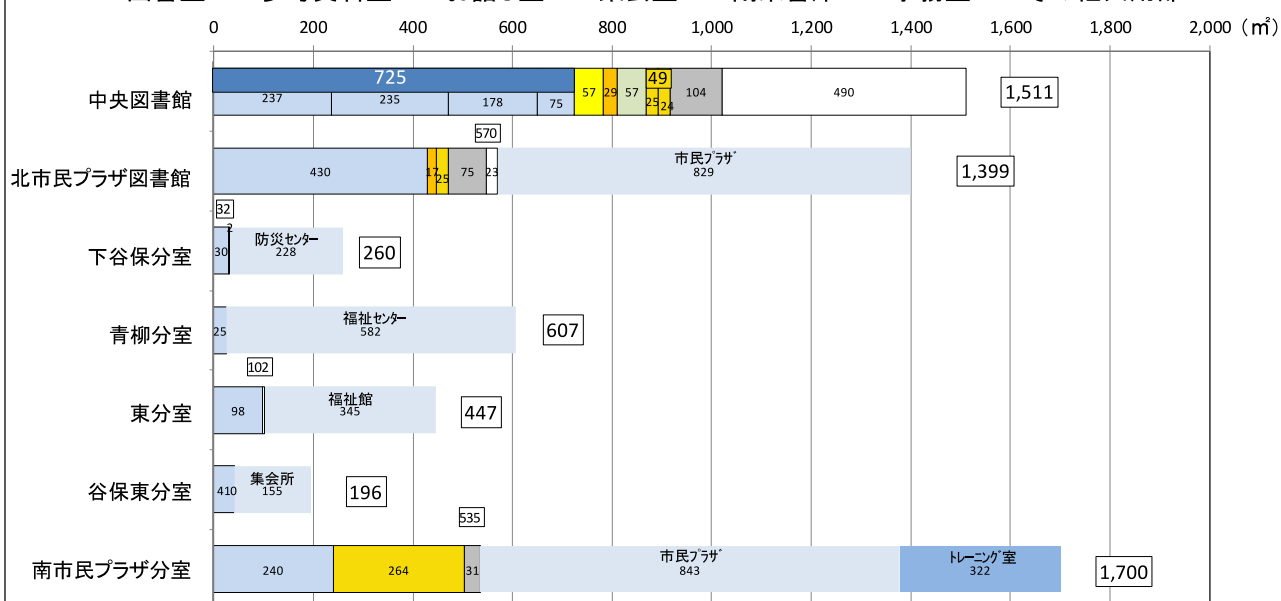
スペース構成

(単位: ㎡)

	図書室・閲覧室				参考資料室	お話し室
中央図書館	237	235	178	75	57	29
北市民プラザ図書館	430	0	0	0	0	17
下谷保分室	30	0	0	0	0	0
青柳分室	25	0	0	0	0	0
東分室	98	0	0	0	0	0
谷保東分室	41	0	0	0	0	0
南市民プラザ分室	240	0	0	0	0	0

	集会室	閉架書庫		事務室	その他共用部	合計
中央図書館	57	25	24	104	490	1,511
北市民プラザ図書館	0	25	0	75	23	570
下谷保分室	0	0	0	0	2	32
青柳分室	0	0	0	0	0	25
東分室	0	0	0	0	4	102
谷保東分室	0	0	0	0	0	41
南市民プラザ分室	0	264	0	31	0	535

■ 図書室 ■ 参考資料室 ■ お話し室 □ 集会室 ■ 閉架書庫 ■ 事務室 □ その他共用部



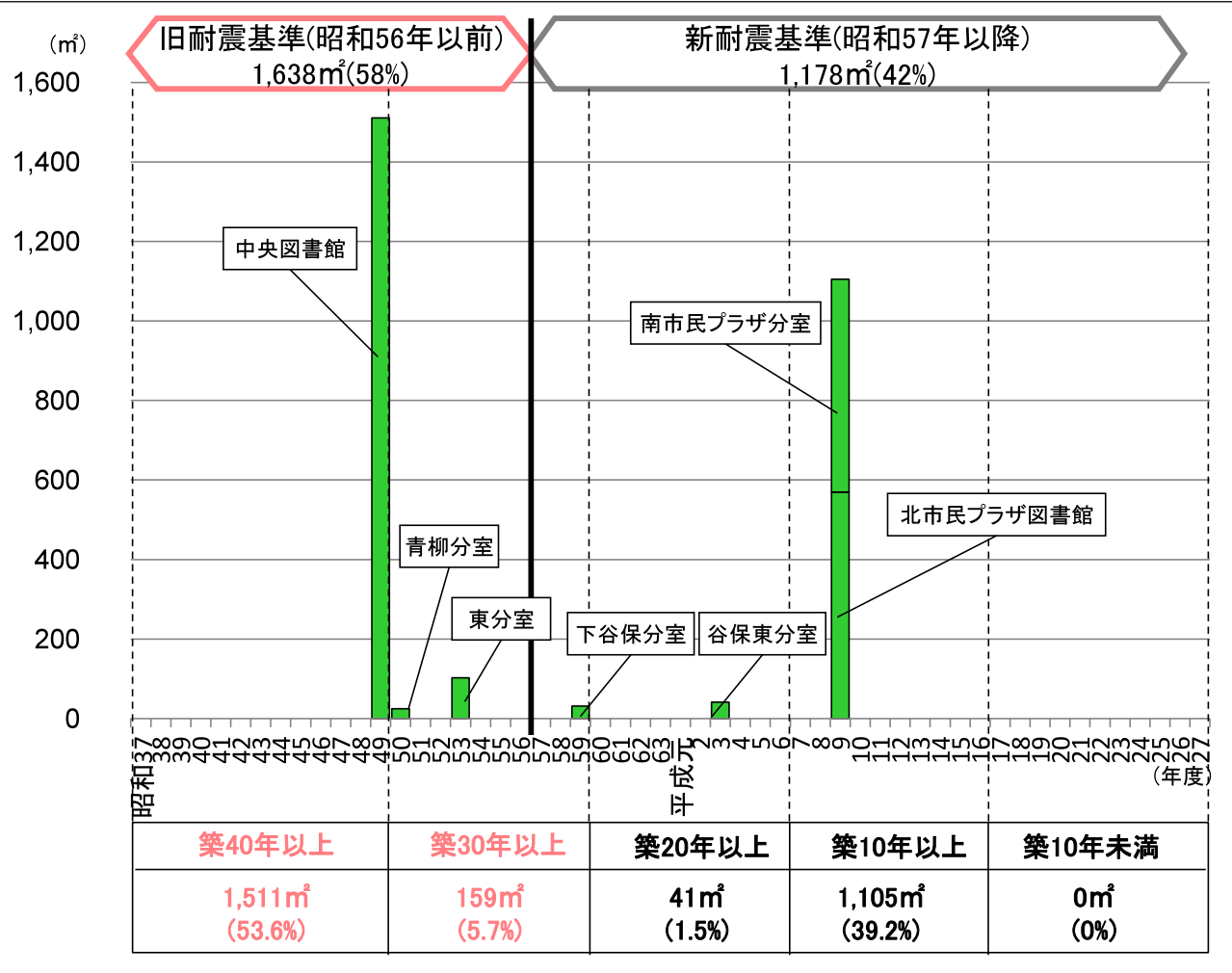
2) 実態把握

① 建物状況

■ 築年別整備状況

図書館の床面積は全体で約 2,816 ㎡です。そのうち、旧耐震基準の建物が約 1,638 ㎡となっています。中央図書館は平成 26 年度に耐震改修工事を実施しております。青柳分室が併設されている青柳福祉センターは、耐震診断の結果耐震安全性は確認されています。東分室が併設されている東福祉館は、平成 28 年度に耐震改修工事を実施する予定となっています。中央図書館は築 41 年となっています。

築年別整備状況



■ 平成 27 年 国立市公共施設保全計画より

中央図書館は昭和 49 年度に建設され、築後 41 年が経過しています。平成 26 年度に耐震補強工事と併せて外壁改修工事を行なっています。

複合施設の青柳分室、東分室は、築後 30 年以上が経過しています。

構造躯体の健全性評価、各部の劣化状況を踏まえ、残存耐用年数の想定年は、中央図書館が 39 年となっており、その他分室は 40 年から 56 年となっています。

※保全計画では建築年でしたが、本書では年度表記としています。また、築後年数、残存耐用年数は 2015 年を基準としています。

図書館の建物総合評価結果

平成26年度の図書館7施設の建物状況について評価を行いました。

		基本情報		①耐震化	②老朽化	③劣化状況	④バリアフリー対応						⑤環境対応			⑥維持管理			
																床面積当たり (円/㎡)			
No.	施設名	建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	劣化 問題 診断 回答 評価	エレベーター※1	車いす 用 トイレ	障がい者 用 トイレ	車いす 用 スロープ	自動 ドア	手すり	点字 ブロック	太陽光 発電の 導入	自然エ ネルギ ー・ 屋上・ 壁面 緑化等	環境 対応 設備※2	光熱水費	建物 管理 委託 費	各所 修繕 費
1	中央図書館	昭和49	1,511	実施済み	41	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	3,094	7,616	478
2	北市民プラザ図書館	平成9	570	不要	18	—	—	—	○	○	—	○	×	×	△	0	0	0	
3	下谷保分室	昭和59	32	不要	31	△	—	—	○	—	—	—	×	×	△	0	0	0	
4	青柳分室	昭和50	25	—	40	△	—	—	○	—	—	—	×	×	△	0	0	0	
5	東分室	昭和53	102	対策中	37	△	—	—	○	○	—	○	×	×	△	0	0	0	
6	谷保東分室	平成3	41	不要	24	○	—	—	○	—	—	—	×	×	△	0	0	0	
7	南市民プラザ分室	平成9	535	不要	18	—	—	—	○	○	—	○	×	×	△	0	0	0	

記載例	③	○:劣化がみられないもの △:一部に劣化がみられるもの・不明 ×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの	④ ⑤	○:実施済 △:一部実施・不明 ×:未実施 一:該当なし	※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等 ※2 節水型便器、高効率照明器具、LED照明、ヒートポンプエアコン等 ※①の「一」は耐震診断の結果耐震補強が不要な施設 「不要」は新耐震基準施設のため耐震診断不要な施設
	⑥の凡例	:用途平均値の1.4倍以上のもの			

評価	パターンⅡ 老朽化	パターンⅣ 今後 老朽化	パターンⅤ バリアフリー・環境対応
	・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設	・今後、老朽化が進行する ⇒今後老朽化対策の検討が必要になる施設	・バリアフリー、環境対応が未完了 ⇒今後、バリアフリーや環境対応が完了していない部分の整備が望まれる施設
該当施設	該当施設 建築年度 中央図書館 昭和49 下谷保分室 昭和59 青柳分室 昭和50 東分室 昭和53 < 4 施設 >	該当施設 建築年度 谷保東分室 平成3 < 1 施設 >	該当施設 建築年度 北市民プラザ図書館 平成9 南市民プラザ分室 平成9 < 2 施設 >
コメント	・耐震性は問題ありませんが、築30年以上と老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。	・新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・比較的新しい施設ですが、バリアフリーや環境対応が望まれます。

② 利用状況

■ 年間貸出冊数・年間貸出者数

中央図書館の開館日数は例年 300 日程度ですが、平成 26 年度は耐震改修工事の期間中（7 月 1 日から 12 月 2 日まで）休館していたため、開館日数が 165 日と少なくなっています。そのため、年間貸出冊数・年間貸出者数をみるにあたっては、平成 26 年度の実績ではなく、通常ベースの平成 27 年 2 月から平成 28 年 1 月までの 1 年間の実績を用いることにします。

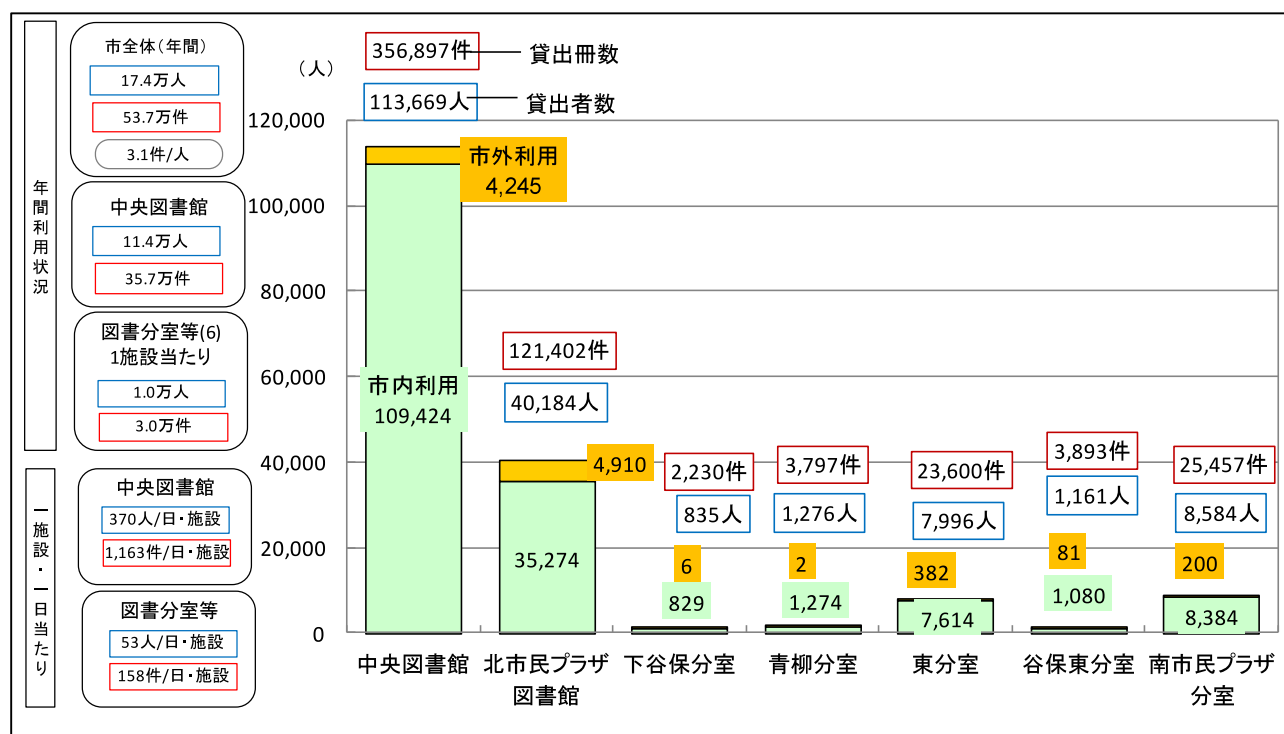
全施設の貸出者数は約 17.4 万人、貸出冊数は約 53.7 万冊です。このうち市外利用者への貸出者数は約 1.0 万人、貸出冊数は約 2.9 万冊となっています。市全体の貸出 1 人あたりの貸出冊数は 3.1 冊となっています。

施設別にみると、中央図書館の貸出者数が約 11.4 万人と、全体の約 65%を占めています。次に多いのが北市民プラザ図書館で、貸出者数は 4.0 万人で全体の約 23%を占めています。この 2 施設で全体の貸出者数の約 88%を占めています。

開館日 1 日あたりの利用状況を各施設ごとにみると、一番少ないのが下谷保分室の貸出者数 9 人、貸出冊数 23 冊で、一番多いのが中央図書館の貸出者数 370 人、貸出冊数 1,163 冊となっています。

また、リクエスト状況をみると、中央図書館で 20,220 件（貸出冊数の約 6%）、北市民プラザ図書館で 4,948 件（貸出冊数の 4%）です。

年間貸出冊数・年間貸出者数（平成 27 年 2 月～平成 28 年 1 月実績）



施設ごとの貸出冊数等（平成 27 年 2 月～平成 28 年 1 月実績）

図書館・分室		開館日数	貸出者数	貸出冊数	予約冊数	登録者数
		日	人	冊	冊	人
中央図書館	市内		109,424	344,297	20,209	2,044
	市外(協定)		4,245	12,600	11	213
	合計	307	113,669	356,897	20,220	2,257
北市民プラザ図書館	市内		35,274	106,960	4,948	432
	市外(協定)		4,910	14,442	0	182
	合計	307	40,184	121,402	4,948	614
下谷保分室	市内		829	2,217	240	4
	市外(協定)		6	13	0	0
	合計	96	835	2,230	240	4
青柳分室	市内		1,274	3,791	115	15
	市外(協定)		2	6	0	0
	合計	98	1,276	3,797	115	15
東分室	市内		7,614	22,354	0	93
	市外(協定)		382	1,246	0	18
	合計	250	7,996	23,600	0	111
谷保東分室	市内		1,080	3,561	111	10
	市外(協定)		81	332	2	6
	合計	97	1,161	3,893	113	16
南市民プラザ分室	市内		8,384	24,793	1,399	84
	市外(協定)		200	664	0	6
	合計	295	8,584	25,457	1,399	90
合 計	市内		163,879	507,973	27,022	2,682
	市外(協定)		9,826	29,303	13	425
	合計		173,705	537,276	27,035	3,107

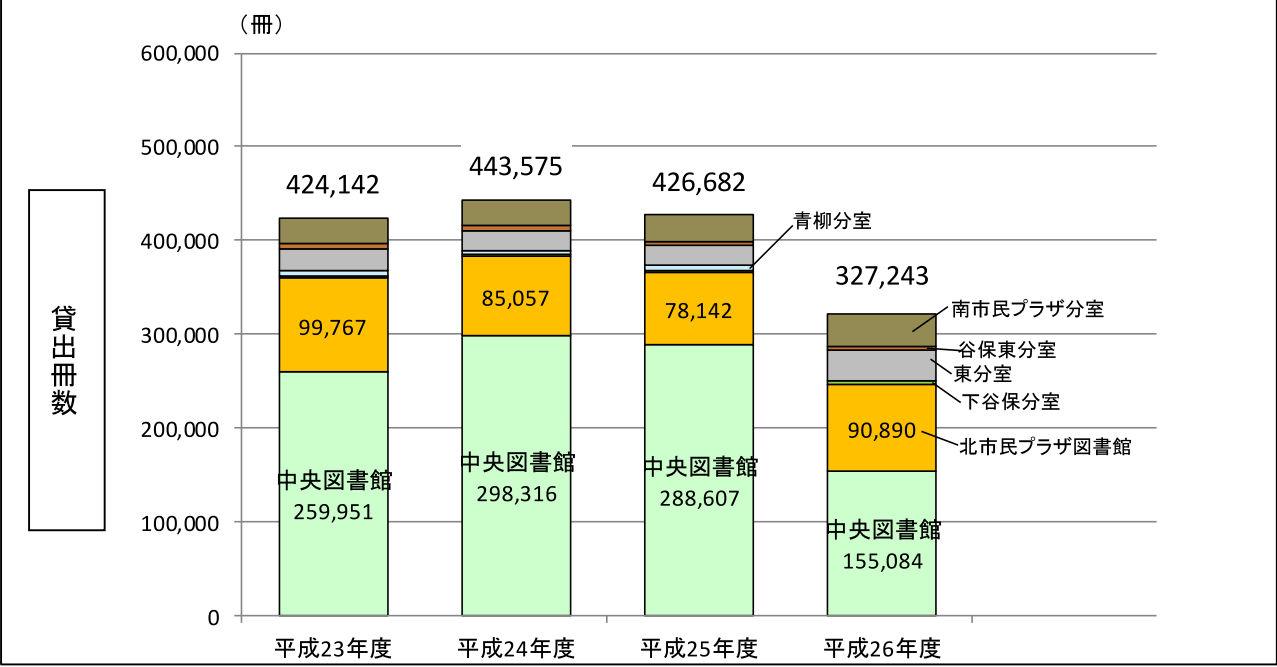
開館日 1 日あたりの貸出者数・貸出冊数（平成 27 年 2 月～平成 28 年 1 月実績）

	開館日数 (日)	貸出者数 (人)	貸出冊数 (冊)	1 日あたりの 貸出者数 (人)	1 日あたりの 貸出冊数 (冊)
中央図書館	307	113,669	356,897	370	1,163
北市民プラザ図書館	307	40,184	121,402	131	395
下谷保分室	96	835	2,230	9	23
青柳分室	98	1,276	3,797	13	39
東分室	250	7,996	23,600	32	94
谷保東分室	97	1,161	3,893	12	40
南市民プラザ分室	295	8,584	25,457	29	86

■ 利用推移

貸出冊数の推移をみると、42.4～44.4万冊程度で推移していましたが、平成26年度は32.7万冊へと減少しています。これは中央図書館の耐震改修工事に伴う休館が影響していると考えられます。

年間貸出冊数の推移



③ 運営状況

図書館は全て直営で運営しており、運営人員は中央図書館が32人、北市民プラザ図書館が9人、東分室が6人、南市民プラザ分室が5人となっており、その他3分室はそれぞれ2人となっています。

運営人員（平成26年度）

	中央図書館	北市民プラザ図書館	下谷保分室	青柳分室	東分室	谷保東分室	南市民プラザ分室	合計
管理運営形態	直営							
正規職員	9	3						12
嘱託員	12	3						15
臨時職員	11	3	2	2	6	2	5	31
合計	32	9	2	2	6	2	5	58

※正規職員には再任用職員を含む。

④ コスト状況

図書館の年間トータルコストは、2 億 3,635 万円です。1 施設当たりの全体平均は 3,376 万円です。

年間トータルコストのうち、施設に係るコストが 1,695 万円（約 7%）、事業運営に係るコストが 2 億 1,616 万円（約 92%）となっています。

施設別トータルコストでは中央図書館が 1 億 8,678 万円となっています。分館、分室は、谷保東分室の 162 万円から北市民プラザ図書館の 3,671 万円となっています。中央図書館を除く 6 施設の平均は 826 万円となっています。

図書館行政コスト計算書（平成 26 年度）

Ⅰ. 現金収支を伴うもの

（単位：千円）

【コストの部】

		中央図書館	北市民プラザ 図書館	下谷保 分室	青柳 分室
施設 に係 る コ ス ト	指定管理料	0	0	0	0
	修繕費	722	0	0	0
	光熱水費	4,675	0	0	0
	委託料	11,508	プラザ、地域集会所等で一括計上。		
	土地借上料等	0	0	0	0
	市債利息償還金	46	0	0	0
	その他	0	0	0	0
施設に係るコスト		16,951	0	0	0
事業 運 営 に 係 る コ ス ト	職員人件費	67,500	22,500	0	0
	嘱託員等報酬	22,984	5,600	0	0
	臨時職員賃金	4,913	1,340	893	893
	委託料	43,044	0	0	0
	その他	28,156	7,269	735	754
事業運営に係るコスト		166,597	36,709	1,628	1,647
現金収支を伴うコスト 計		183,548	36,709	1,628	1,647

【収入の部】

分担金及び負担金	0	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	0
現金収入を伴う収益 計	0	0	0	0

Ⅱ. 現金収支を伴わないもの

【コストの部】

減価償却相当額	3,234	0	0	0
---------	-------	---	---	---

【収入の部】

収入未済額	0	0	0	0
-------	---	---	---	---

Ⅲ. 総括

コストの部合計（トータルコスト）	186,782	36,709	1,628	1,647
収支差額（ネットコスト）	186,782	36,709	1,628	1,647

<参考データ>

国・都支出金	441	0	0	0
その他の収入	127	0	0	0

Ⅰ. 現金収支を伴うもの

(単位: 千円)

【コストの部】

	東 分室	谷保東 分室	南プラザ 分室	合計
指定管理料	0	0	0	0
施設に係るコスト				
修繕費	0	0	0	722
光熱水費	0	0	0	4,675
委託料	プラザ、地域集会所等で一括計上。			11,508
土地借上料等	0	0	0	0
市債利息償還金	0	0	0	46
その他	0	0	0	0
施設に係るコスト	0	0	0	16,951
事業運営に係るコスト				
職員人件費	0	0	0	90,000
嘱託員等報酬	0	0	0	28,584
臨時職員賃金	2,680	893	2,233	13,845
委託料	0	0	0	43,044
その他	1,277	724	1,776	40,691
事業運営に係るコスト	3,957	1,617	4,009	216,164
現金収支を伴うコスト 計	3,957	1,617	4,009	233,115

【収入の部】

分担金及び負担金	0	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	0
現金収入を伴う収益 計	0	0	0	0

Ⅱ. 現金収支を伴わないもの

【コストの部】

減価償却相当額	0	0	0	3,234
---------	---	---	---	-------

【収入の部】

収入未済額	0	0	0	0
-------	---	---	---	---

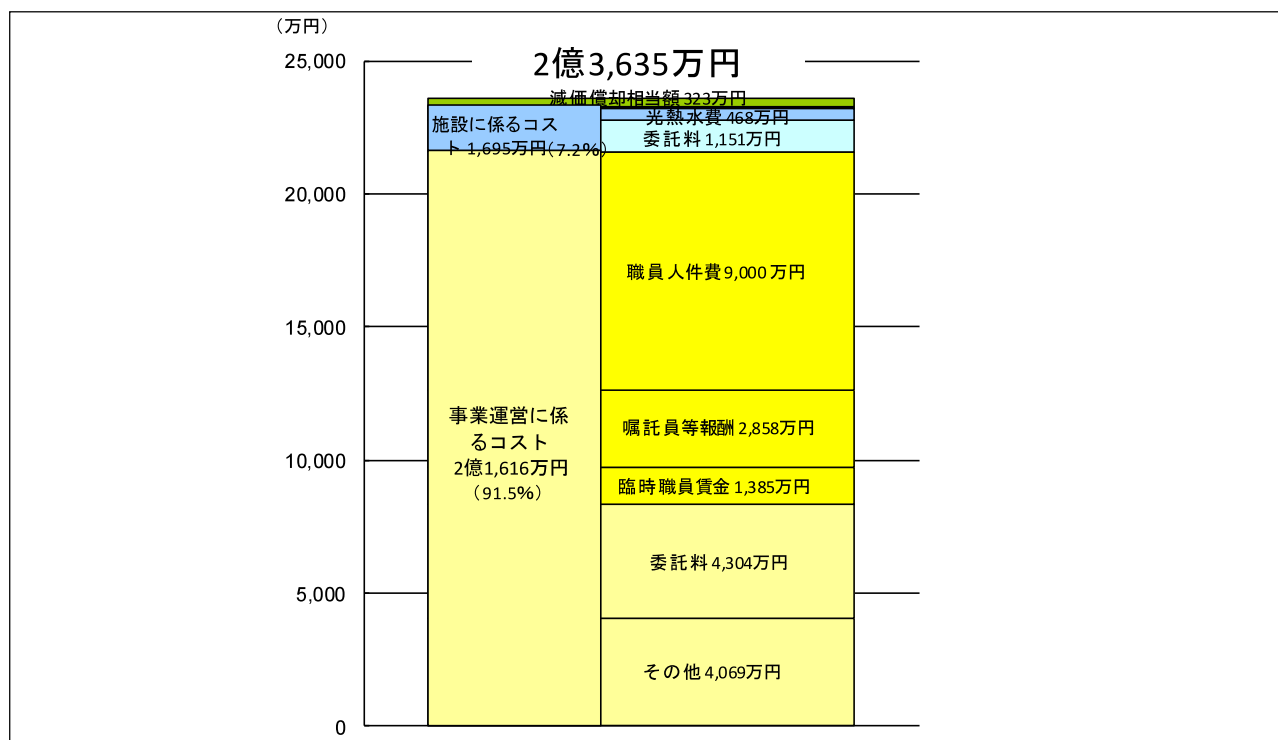
Ⅲ. 総括

コストの部合計(トータルコスト)	3,957	1,617	4,009	236,349
収支差額(ネットコスト)	3,957	1,617	4,009	236,349

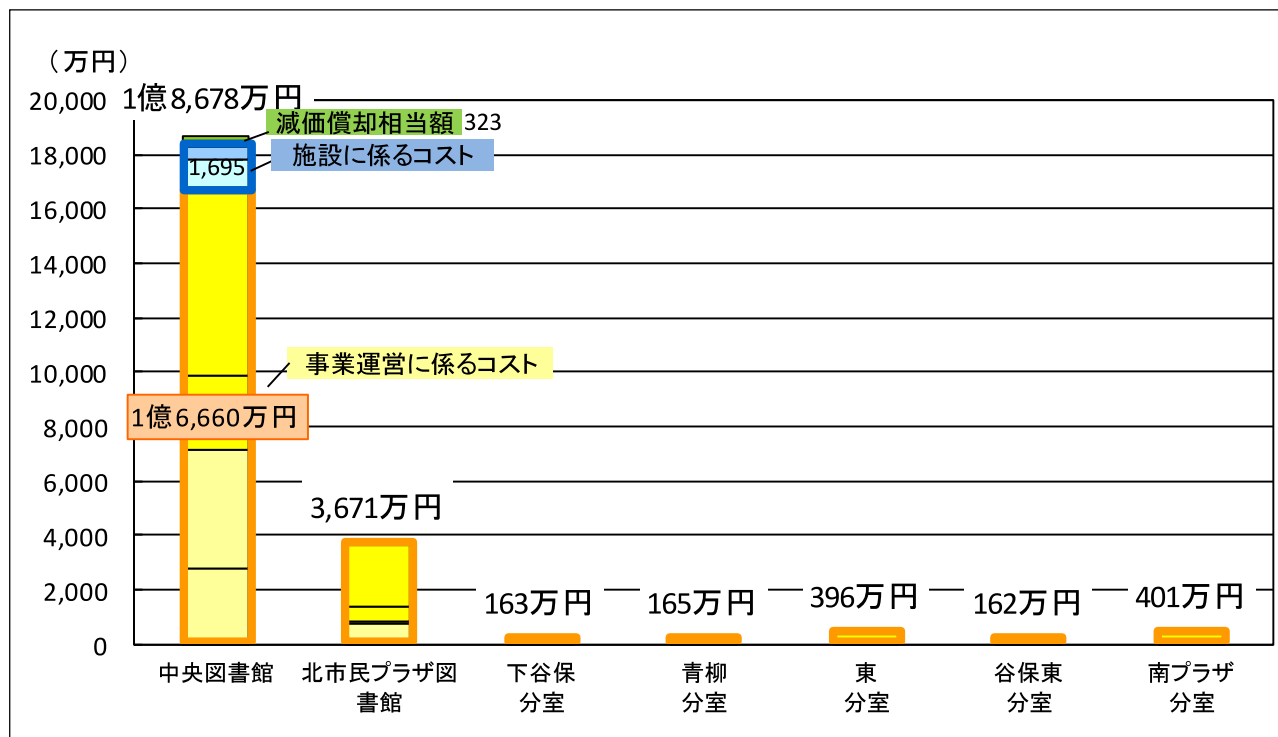
＜参考データ＞

国・都支出金	0	0	0	441
その他の収入	0	0	0	127

図書館トータルコスト（平成 26 年度）



施設別 図書館トータルコスト（平成 26 年度）



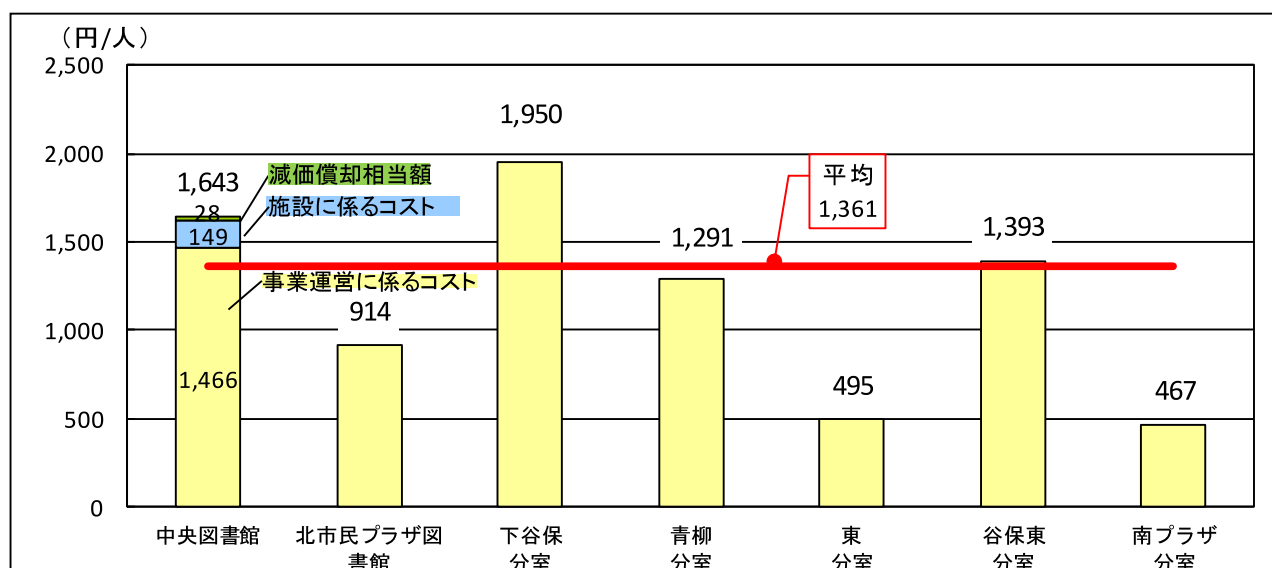
3) 評価・分析

■ 利用者 1 人あたりに係るコスト

平成 26 年度は中央図書館の耐震改修工事を行っていたため、利用者 1 人あたりにかかるコストの算出にあたっては、平成 26 年度の経常的なコストと平成 27 年 2 月から平成 28 年 1 月までの 1 年間の利用者（貸出者数）を用いることとします。

年間利用者数（貸出者数）とトータルコストから利用者 1 人あたりに係るコストを算出すると、平均は 1,361 円です。

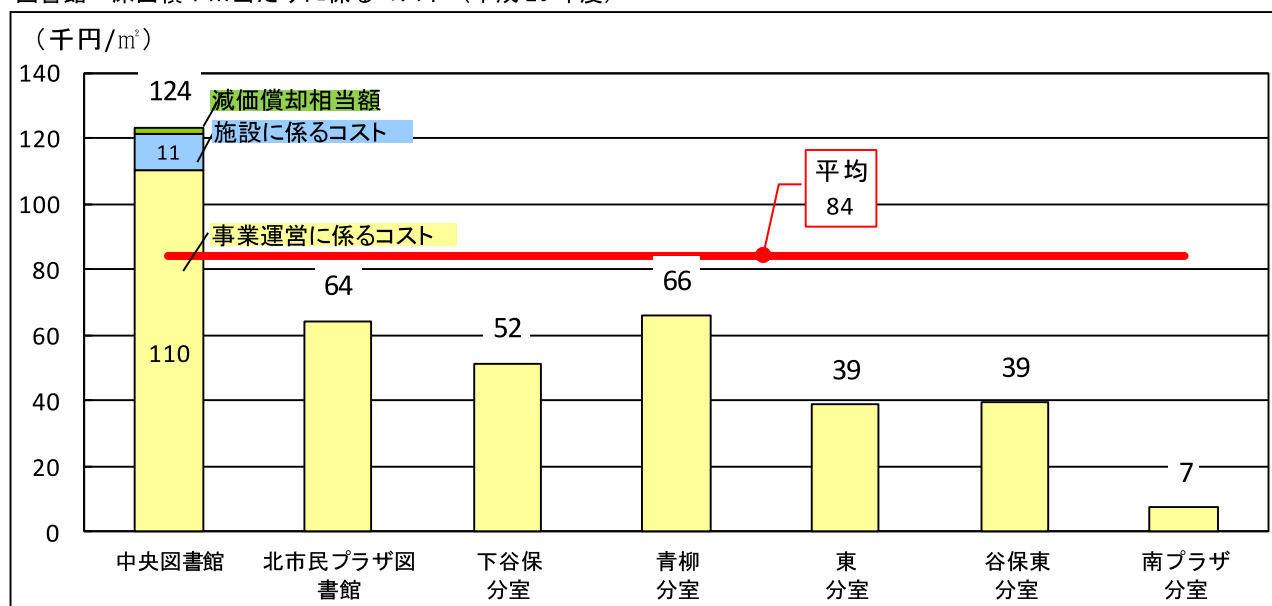
図書館 利用者 1 人あたりに係るコスト（平成 26 年度）



■ 床面積 1 m²あたりに係るコスト

床面積とトータルコストから床面積 1 m²あたりに係るコストを算出すると、平均は 84 千円/m²です。施設別では中央図書館が、124 千円/m²で最も高く、南プラザ分室が 7 千円/m²と最も低くなっています。

図書館 床面積 1 m²あたりに係るコスト（平成 26 年度）



4) 今後の検討の視点

- 図書館機能を持った施設としては、中央図書館、北市民プラザ図書館、5分室のほか、公民館図書室、学校図書館、児童館の図書室が挙げられます。利用状況やコスト等を把握した上で、全体の施設配置等を検討する必要があります。
- 施設の運営方法については、指定管理者制度の導入といった民間活力を積極的に活用することなど、効率的・効果的な手法を検討する必要があります。

(9) 公民館

1) 施設概要

① 設置目的

社会教育法第20条及び国立市公民館条例に基づき、市民等の実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として設置しています。



公民館

② 施設一覧

本市では、公民館を1施設設置しています。

施設一覧

施設名	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	構造 (主たる建物)
公民館	中1-15-1	1,589.8	昭和53	RC造

③ 事業内容

公民館主催事業として、現代社会の課題を考える講座や、共生の地域社会をはぐくむ講座などを実施しています。また、各種団体の自主的・自発的な学習活動のために施設の貸出を行い、その活動成果の発表の場として、くにたち市民文化祭を開催しています。

④ 開館時間等（平成26年度）

開館時間	休館日	開館日数
午前9時から午後10時まで	月曜日・年末年始	308日

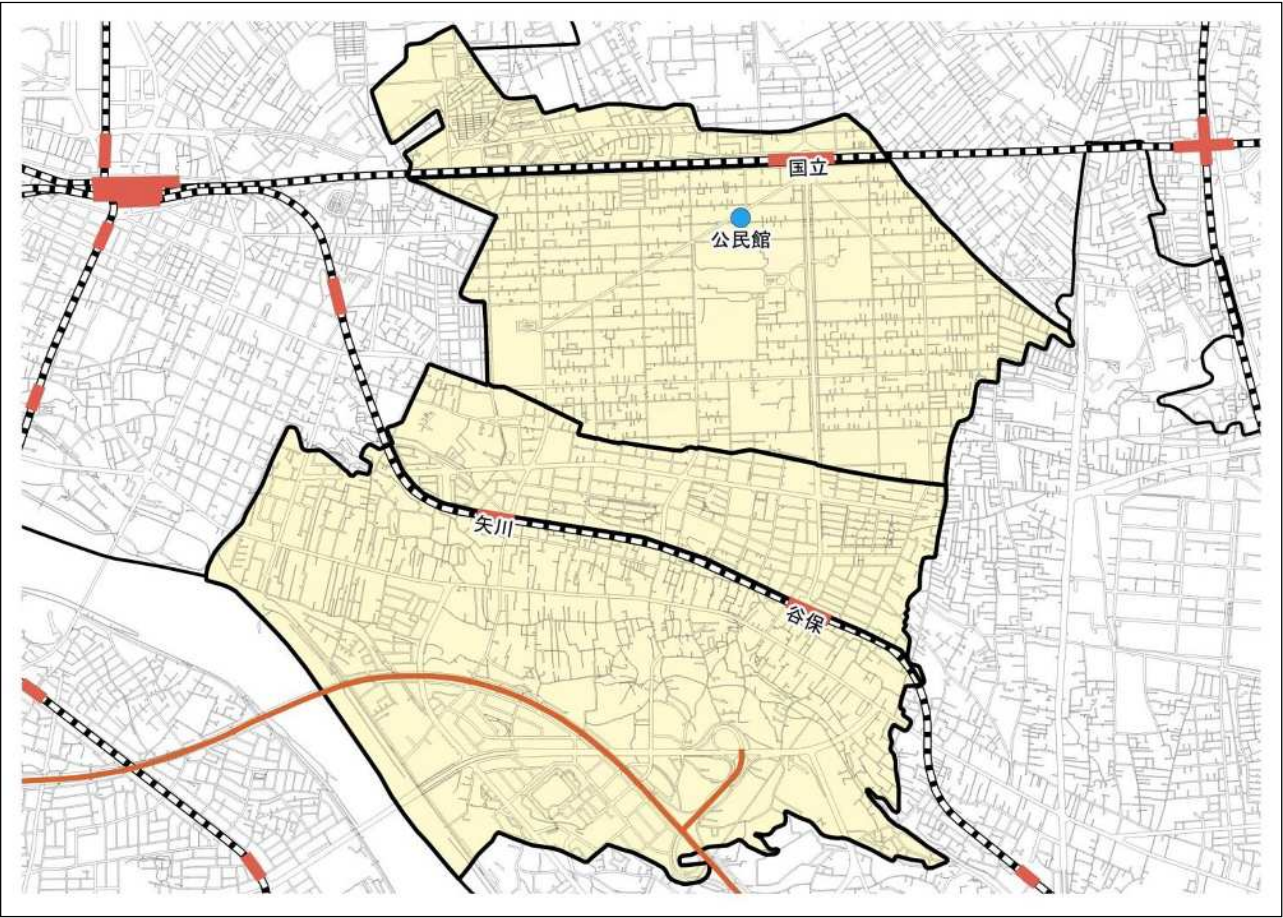
⑤ 利用方法

社会教育の場として9会場（ホール、音楽室、講座室、集会室、和室、中集会室、小集会室、実習室、ロビー）の貸出を行っています。利用料は無料です。利用にあたっては、先着順のほか、会場調整会を使用月の1ヵ月前の第一土曜日に実施しています。利用対象は、宗教・政治・営利活動以外の活動を目的としたものとしています。

⑥ 配置状況

公民館は東・中・西地域に設置されています。

公民館位置図

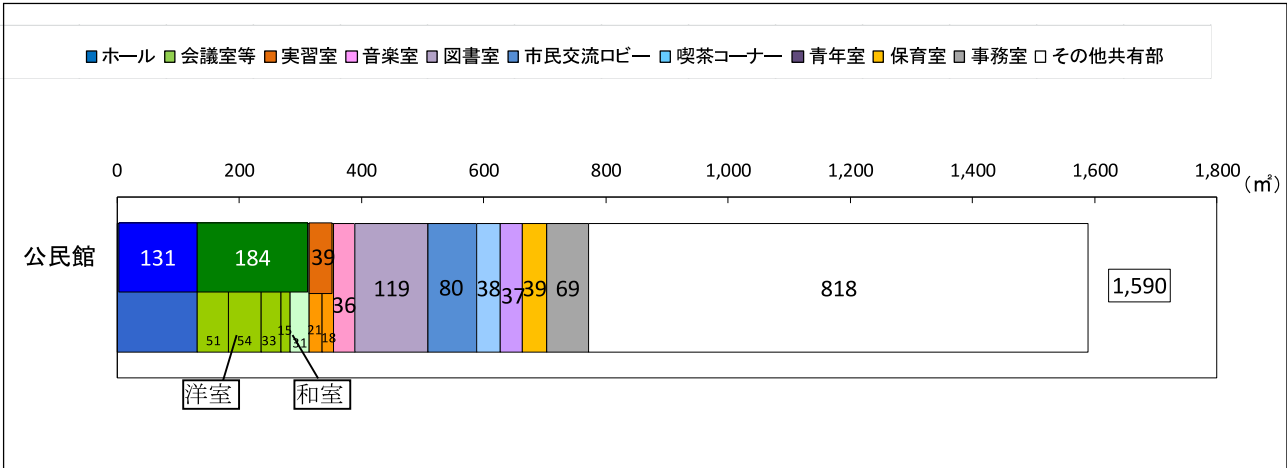


⑦ スペース構成

公民館の床面積は、約 1,590 ㎡となっています。

スペース構成の特徴として、会議室等が 184 ㎡と大きく、次いで多目的ホールの 119 ㎡となっています。

スペース構成



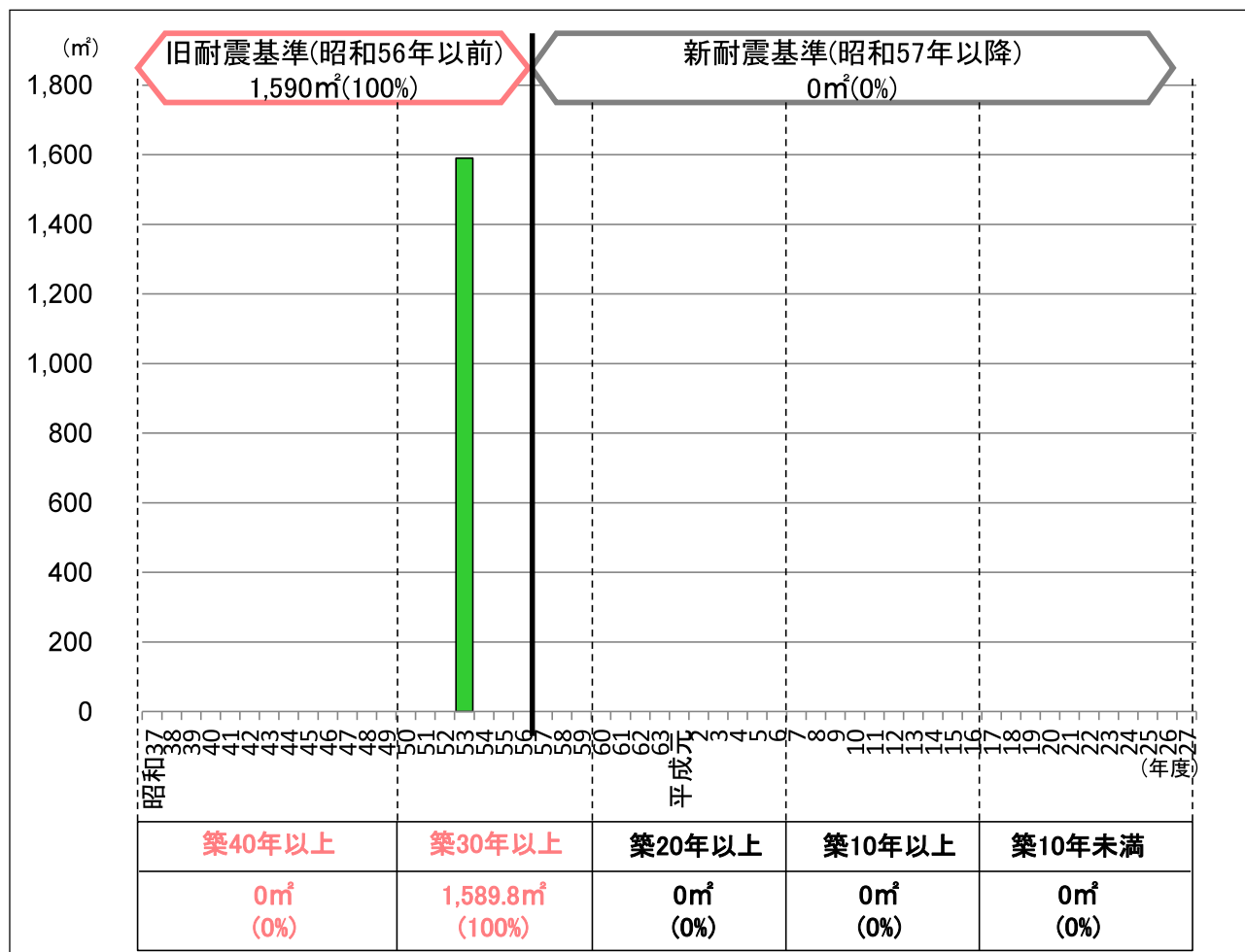
2) 実態把握

① 建物状況

■ 築年別整備状況

公民館の床面積は 1,590 m²です。旧耐震基準の建物ですが、耐震診断の結果耐震安全性は確認されています。築 37 年となっています。

築年別整備状況



■ 平成 27 年 国立市公共施設保全計画より

公民館は昭和 53 年度に建設され、築後 37 年が経過しています。

外部階段の白華や、バルコニーのモルタル剥離等の劣化が見られます。外部仕上げ及び設備機器に劣化が生じています。また、内部への漏水、設備機器の発錆など随所に不具合が生じています。特に、改修歴のない冷暖房設備は改修工事が求められます。

構造躯体の健全性評価、各部の劣化状況を踏まえ、残存耐用年数の想定年は43年となっています。

※保全計画では建築年でしたが、本書では年度表記としています。また、築後年数、残存耐用年数は2015年を基準としています。

■ 公民館の建物総合評価結果

平成 26 年度の国立市公民館の建物状況について評価を行いました。

		基本情報		①耐震化	②老朽化	③劣化状況	④バリアフリー対応							⑤環境対応	⑥維持管理			
															床面積当たり (円/㎡)			
No.	施設名	建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	劣化 問題 診断 票回 答評 価	車いす用 エレベーター※1	障がい者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動 ドア	手すり	点字 ブロック	太陽光 発電の 導入	自然エ ネルギ ー・ 屋上・ 壁面 緑化等	環境 対応 設備※2	光熱水 費	建物 管理 委託 費	各所 修繕 費
1	公民館	昭和53	1,590	—	37	△	○	○	○	○	○	○	×	×	△	4,236	5,363	566
記載例	③	○:劣化がみられないもの △:一部に劣化がみられるもの・不明 ×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの				④ ⑤	○:実施済 △:一部実施・不明 ×:未実施 —:該当なし				※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等 ※2 節水型便器、高効率照明器具、LED照明、ヒートポンプエアコン等 ※①の「—」は耐震診断の結果耐震補強が不要な施設 「不要」は新耐震基準施設のため耐震診断不要な施設							

評価	パターンⅡ 老朽化
	・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設
該当施設	該当施設 建築年度 公民館 昭和53 < 1 施設 >
コメント	・耐震性は問題ありませんが、築30年以上と老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。

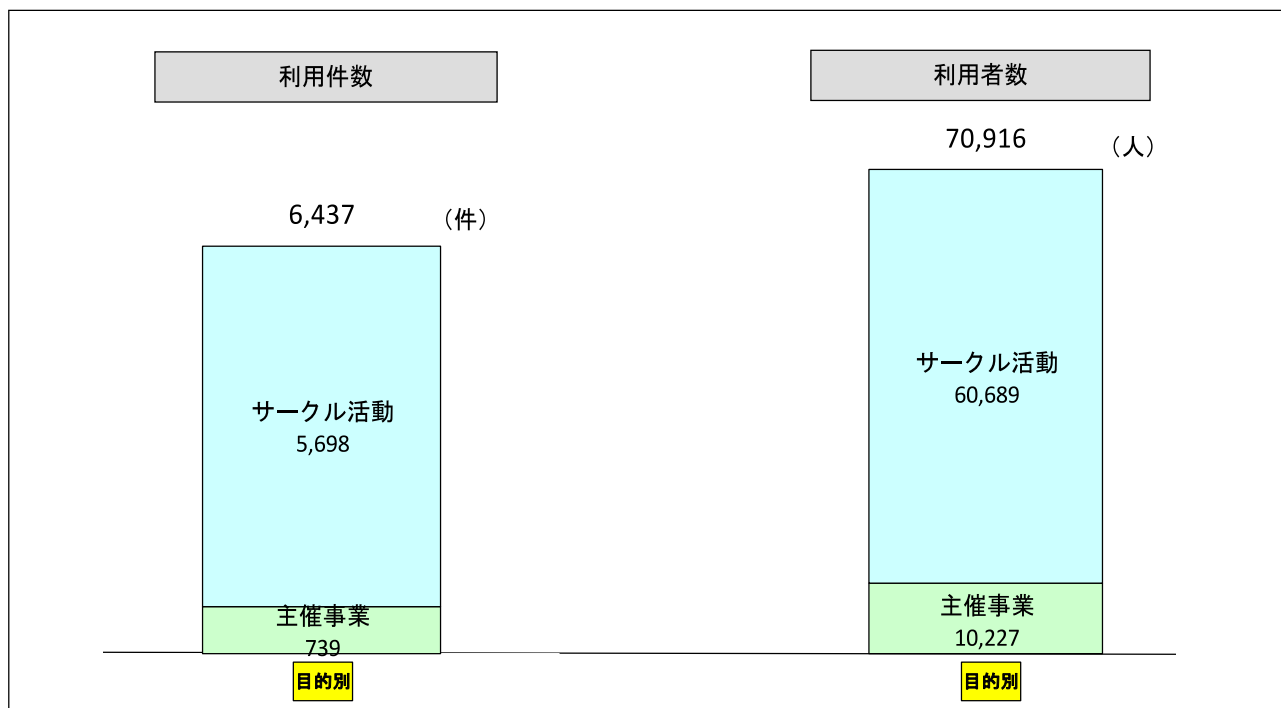
② 利用状況

■ 年間利用件数・利用者数

公民館の利用件数は年間約 6,400 件、利用者数は約 7 万人です。

利用件数の内訳をみると、サークル活動が最も多く、89%を占めています。また、利用者数の内訳をみると、利用件数に比例してサークル活動が最も多くなっています。

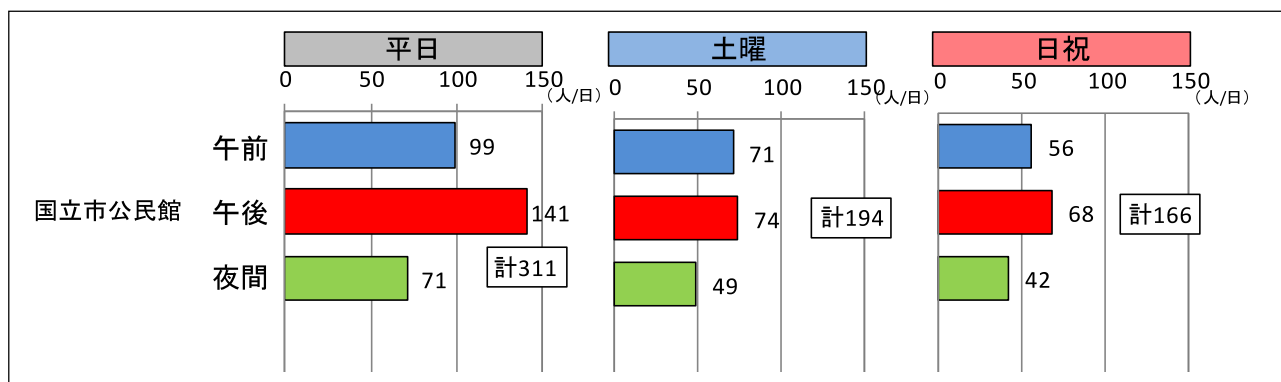
年間利用件数・年間利用者数（平成 26 年度）



■ 時間帯別利用状況

時間帯別の利用状況をみると、全体的に午後の利用が多く、夜間の利用は少ない傾向となっています。

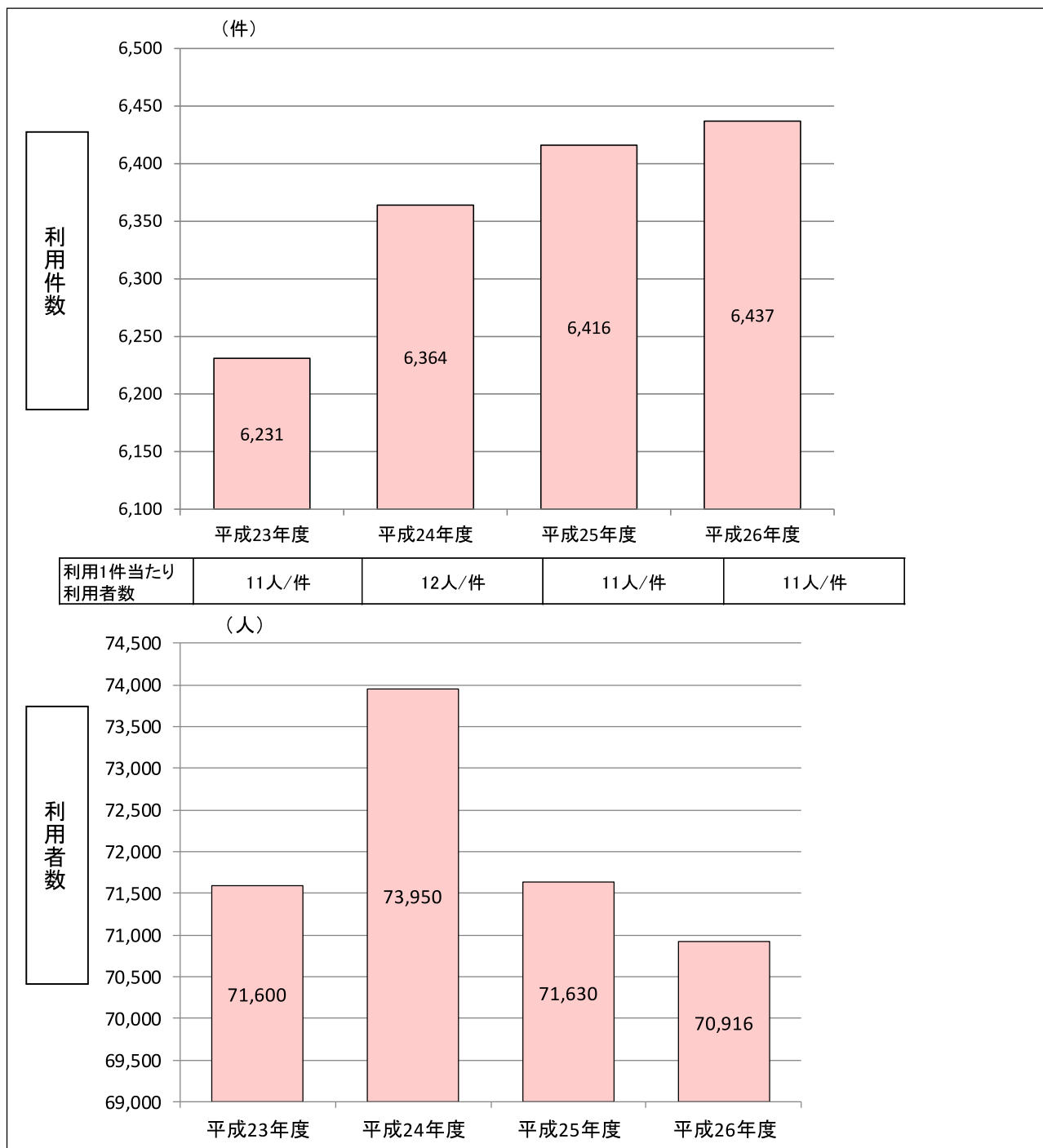
平日土日別時間帯別利用状況



■ 利用推移

直近4年間の利用件数の推移をみると、6,231件から6,437件とほぼ横ばいとなっています。一方、利用者数の推移をみると、平成24年度の7.4万人から平成26年度は7.1万人と減少しています。利用1件当たりの利用者数はほぼ変わらず、11～12人/件です。

年間利用件数・利用者数の推移



③ 運営状況

公民館は直営の施設となっています。運営人員をみると、合計で 27 人が運営にあたっています。

運営人員（平成 26 年度）

	公民館
管理運営形態	直営
正規職員	7
嘱託員	8
臨時職員	12
合計	27

※正規職員には再任用職員を含む

④ コスト状況

公民館の年間トータルコストは、1 億 1,799 万円です。

年間トータルコストのうち、施設に係るコストが 1,621 万円（約 13%）、事業運営に係るコストが 9,477 万円（約 80%）、減価償却相当額が 702 万円となっています。

公民館行政コスト計算書（平成 26 年度）

Ⅰ. 現金収支を伴うもの

（単位：千円）

【コストの部】

公民館

指定管理料		0
施設に係るコスト	修繕費	900
	光熱水費	6,734
	委託料	8,526
	土地借上料等	0
	市債利息償還金	0
	その他	48
施設に係るコスト		16,208
事業運営に係るコスト	職員人件費	52,500
	嘱託員等報酬	13,193
	臨時職員賃金	3,256
	委託料	5,907
	その他	19,909
事業運営に係るコスト		94,765
現金収支を伴うコスト 計		110,973

【収入の部】

分担金及び負担金	0
使用料及び手数料	12
現金収入を伴う収益 計	12

Ⅱ. 現金収支を伴わないもの

【コストの部】

減価償却相当額	7,021
---------	-------

【収入の部】

収入未済額	0
-------	---

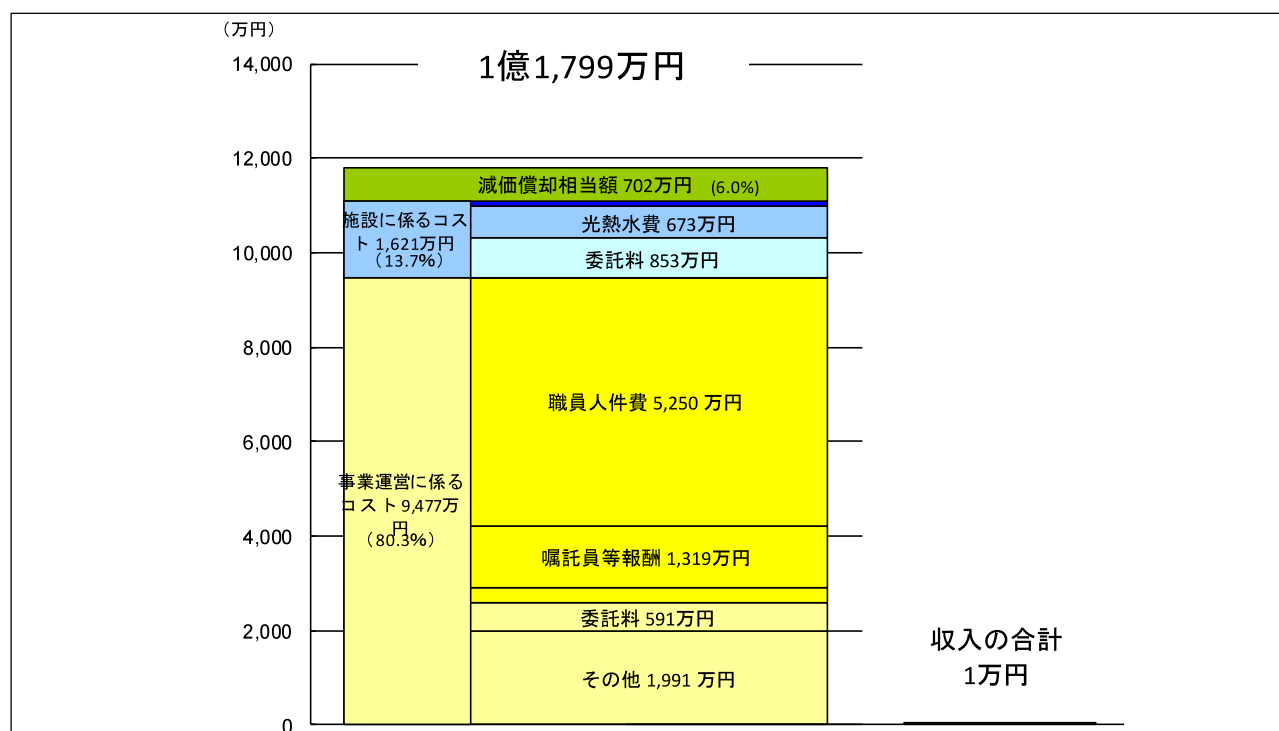
Ⅲ. 総括

コストの部合計（トータルコスト）	117,994
収支差額（ネットコスト）	117,982

＜参考データ＞

国・都支出金	1,709
その他の収入	308

公民館トータルコスト（平成 26 年度）

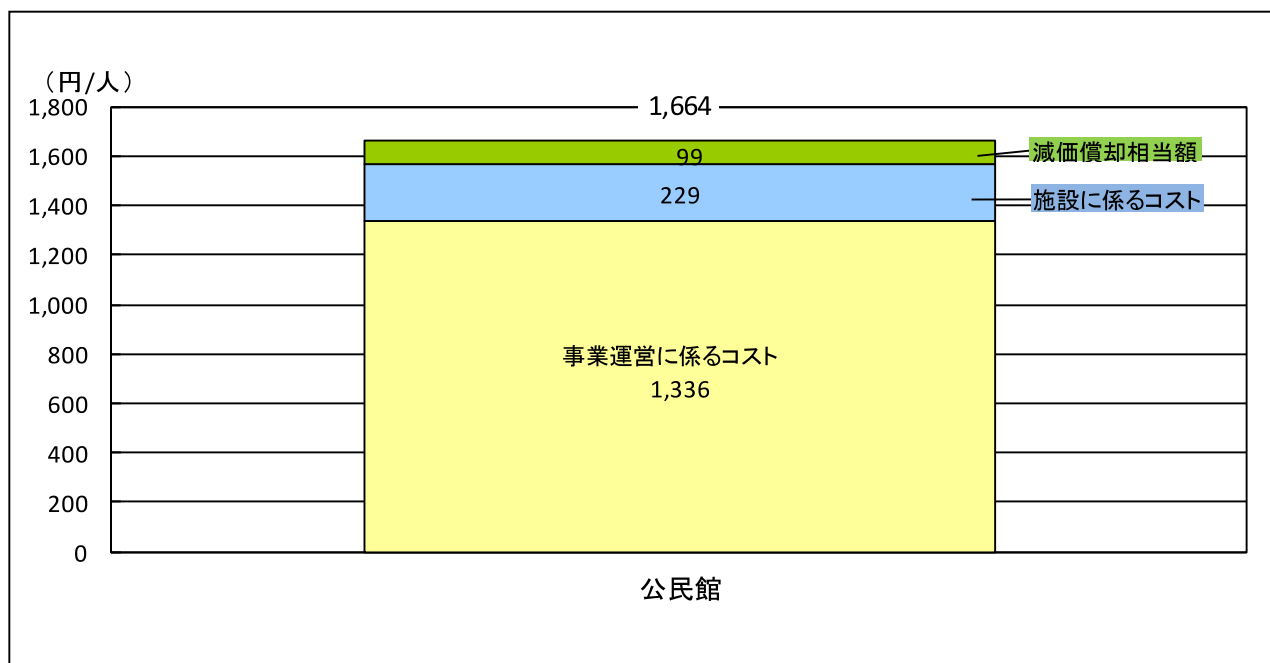


3) 評価・分析

■ 利用者 1 人あたりに係るコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者 1 人あたりに係るコストを算出すると、1,664 円/人です。

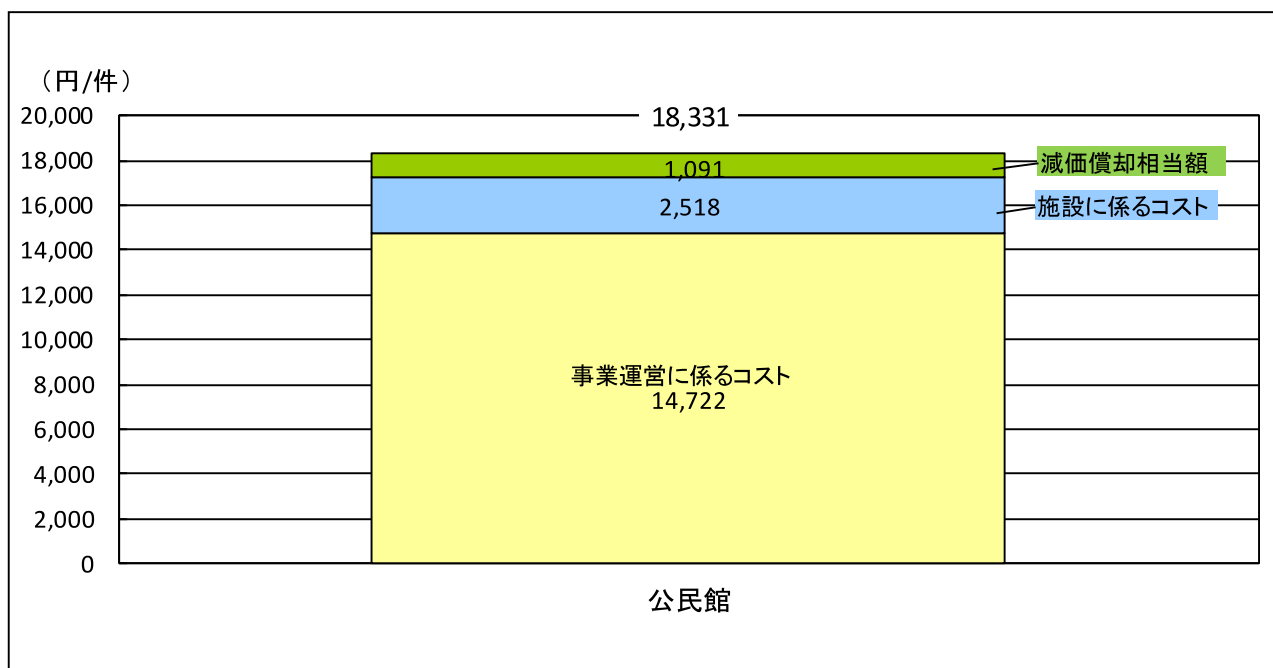
公民館 利用者 1 人あたりに係るコスト（平成 26 年度）



■ 利用 1 件あたりに係るコスト

年間利用件数とトータルコストから利用 1 件あたりに係るコストを算出すると、1 万 8,331 円/件です。

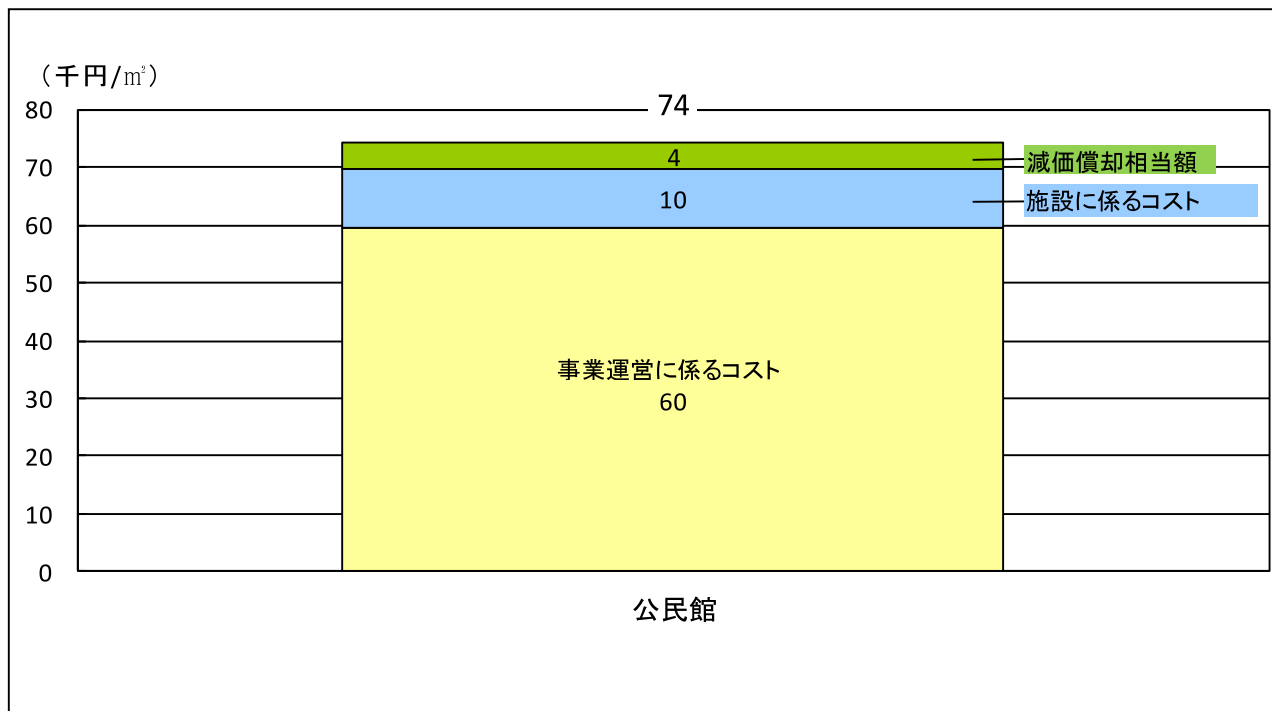
公民館 利用 1 件あたりに係るコスト（平成 26 年度）



■ 床面積 1 m²あたりに係るコスト

床面積とトータルコストから床面積 1 m²あたりに係るコストを算出すると、74 千円/m²です。

公民館 床面積 1 m²あたりに係るコスト（平成 26 年度）



4) 今後の検討の視点

- 施設の運営方法については、指定管理者制度の導入といった民間活力を積極的に活用するなど、効果的・効率的な手法を検討する必要があります。
- 公民館では各種団体の自主的・自発的な学習活動のために施設の貸出を行っています。無料で施設を利用することができること、国立駅から近いという恵まれた立地等の理由から、他施設の貸し部屋に比べ高い稼働率となっています。他の貸し部屋機能とのバランスから、施設利用に関する受益者負担の適正化についても検討する必要があります。

(10) その他社会教育施設

1) 施設概要

① 設置目的

市民芸術小ホールは、くにたち市民芸術小ホール条例に基づき、市民の芸術、文化の普及振興を図り、地域文化の創造と向上に寄与するために設置しています。

郷土文化館は、くにたち郷土文化館条例に基づき、郷土の歴史、民俗及び自然その他文化、教育に関する資料を収集、保管、展示して市民の利用に供するとともに、地域文化の継承と創造並びにその発展に寄与するために設置しています。

古民家は、国立市古民家設置条例に基づき、市内の古民家を復元・保存し、市民の利用に供することによって、郷土文化の継承及び発展に寄与するために設置しています。



市民芸術小ホール



郷土文化館

② 施設一覧

本市では、その他社会教育施設として、3施設を設置しています。

施設一覧

施設名	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	構造 (主たる建物)	備考
市民芸術小ホール	富士見台 2-48-1	3,217.3	昭和 62	RC 造	
郷土文化館	谷保 6231	2,181.7	平成 5	RC 造	有償借地（一部）
古民家	泉 5-21-20	137.1	平成 2	木造	

③ 事業内容

<市民芸術小ホール>

公益目的事業として、コンサート・ミュージカル・能・落語、美術等幅広い分野のイベント開催のほか、市民団体との共催による事業を実施しています。また、ホールやスタジオ等の貸し出しも行っています。

<郷土文化館>

郷土の歴史、民俗及び自然その他文化、教育に関する資料を収集、保管、展示しています。展示・収蔵品として、顔面把手付土器、紡錘車、谷保天満宮獅子頭、緑川東遺跡大型石棒等があります。また、収集した資料の調査、研究や地域文化の継承、発展に関する取り組みも行っています。その他に、講堂等の貸し出しも行っています。

<古民家>

古民家は、青柳の旧柳澤家住宅を移築復元したもので、市の指定有形文化財です。建築年代を特定する資料は発見されていませんが、解体調査の結果、江戸時代後期に建てられたものと推定されます。一般の見学及び郷土の伝統的な生活習慣、芸能、工芸等に関する体験などができます。

④ 開館時間等（平成 26 年度）

施設名	開館時間	休館日	開館日数
市民芸術小ホール	午前 9 時から午後 9 時 30 分まで	第 2、4 木曜日 年末年始	2 2 1 日※
郷土文化館	午前 9 時から午後 9 時 30 分まで		3 3 5 日
古民家	午前 10 時から午後 4 時まで		

※市民芸術小ホールの開館日数は例年 330 日程度ですが、平成 26 年度は設備更新工事の期間中（8 月 1 日から 11 月 30 日まで）休館していたため、開館日数が 221 日と少なくなっています。

⑤ 利用方法・利用制限

＜市民芸術小ホール＞

主に市民の芸術、文化活動、発表などの場として利用できます。ホール、スタジオは 7 か月前の月の 28 日から、ギャラリー、音楽練習室は 6 か月前の月の初日から申し込みを受け付けます。

＜市民芸術小ホール 利用料金表＞

施設名	利用日	午前	午後	夜間	全日
		9:00～12:00	13:00～16:30	17:30～22:00	9:00～22:00
ホール	平日	11,200 円 (仕込 5,600 円)	19,600 円 (仕込 9,800 円)	25,200 円 (仕込 12,600 円)	50,700 円 (仕込 25,350 円)
	土日祝	13,300 円 (仕込 6,650 円)	23,400 円 (仕込 11,700 円)	30,100 円 (仕込 15,050 円)	60,300 円 (仕込 30,150 円)
スタジオ	平日	2,300 円	4,000 円	5,200 円	10,400 円
	土日祝	2,800 円	4,800 円	6,200 円	12,500 円
音楽練習室	平日	2,000 円	3,600 円	4,600 円	9,300 円
	土日祝	2,400 円	4,200 円	5,500 円	11,000 円
アトリエ	平日	1,400 円	2,500 円	3,200 円	6,500 円
	土日祝	1,700 円	3,000 円	3,800 円	7,700 円
ギャラリー	—	—	—	—	12,000 円

＜郷土文化館＞

常設展示は無料（企画展、特別展については別途設定）でご覧いただけます。また、講堂、研修室、特別展示室は有料で使用できます。講堂、特別展示室は 6 か月前の月の初日から、研修室は 2 か月前の月の初日から申し込みを受け付けます。

＜郷土文化館 利用料金表＞

区分	午前	午後	夜間	全日
時間	9:00～12:00	13:00～16:00	17:30～21:30	9:00～21:30
講堂	1,400 円	1,600 円	1,800 円	4,800 円
研修室(1)	800 円	900 円	1,000 円	2,700 円
研修室(2)	800 円	900 円	1,000 円	2,700 円
特別展示室	—	—	—	7,200 円

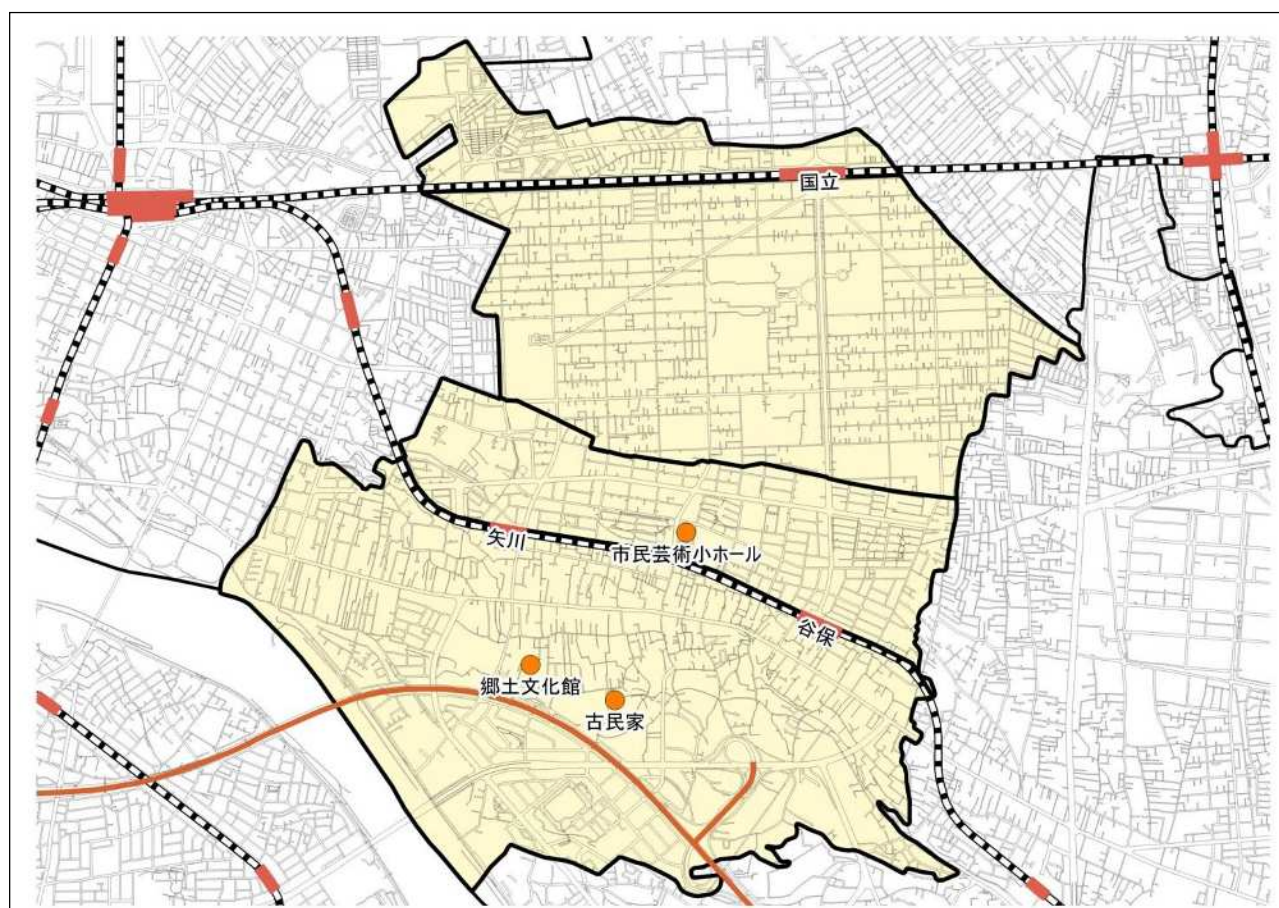
＜古民家＞

開館時間内であれば、いつでも無料で見学できます。郷土の伝統的な生活習慣、芸能、工芸等に関する体験で古民家を利用するときは、使用の一週間前までに、郷土文化館へ申請してください。

⑥ 配置状況

市民芸術小ホールは富士見台地域に、郷土文化館及び古民家は南部地域に設置されています。

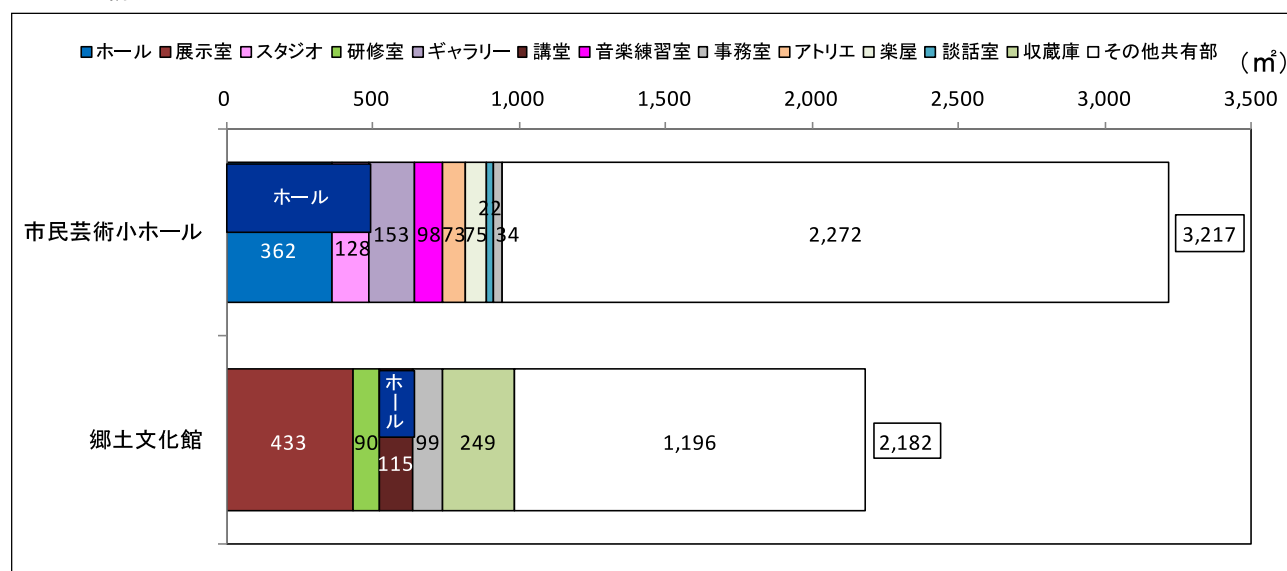
その他社会教育施設位置図



⑦ スペース構成

その他社会教育施設の床面積は、市民芸術小ホールが 3,217 ㎡、郷土文化館が 2,182 ㎡となっています。

スペース構成



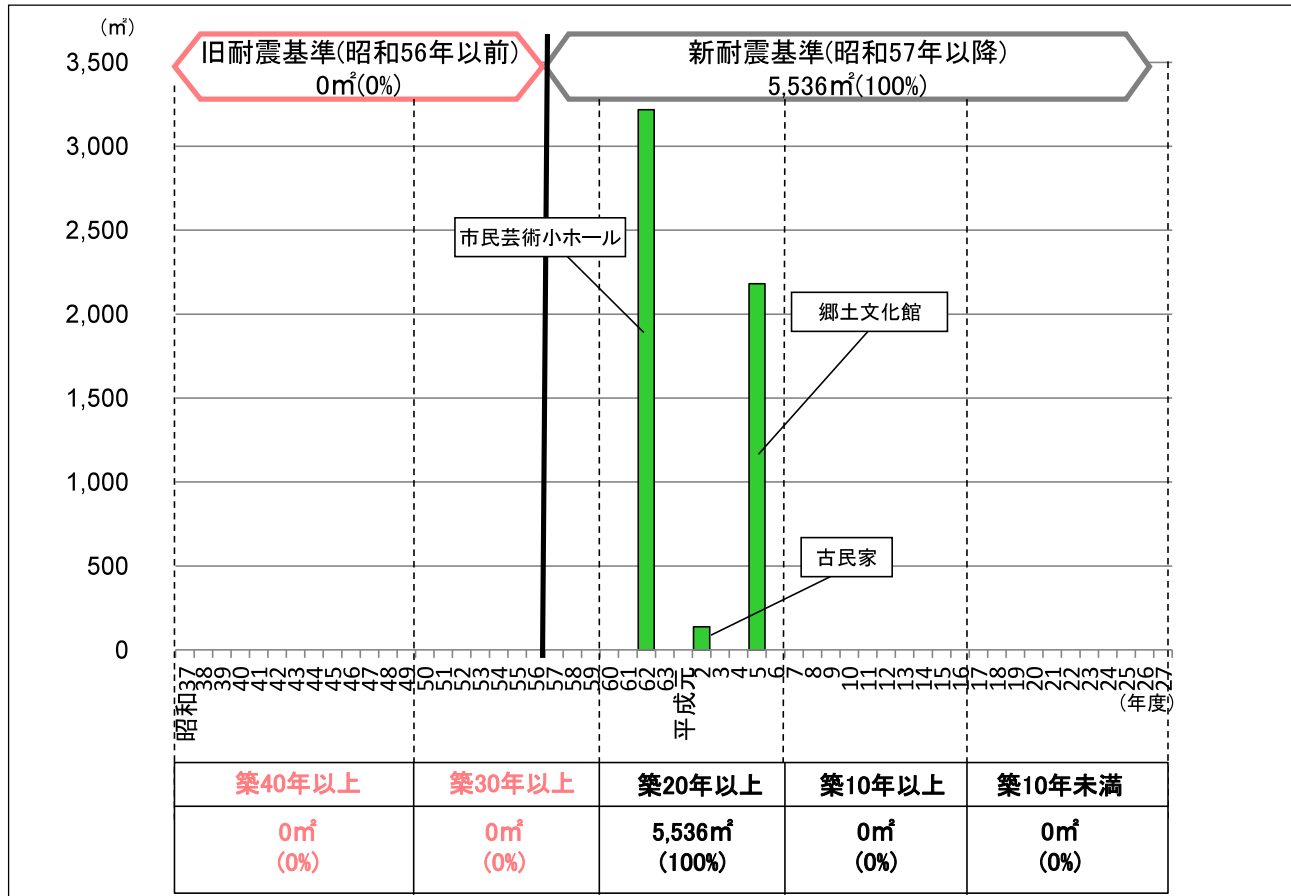
2) 実態把握

① 建物状況

■ 築年別整備状況

その他社会教育施設全体の床面積は 5,536 m²で、旧耐震基準の建物はありません。比較的新しい建物ですが、築 20 年以上経っており、今後老朽化対策の検討が必要になります。

築年別整備状況 (平成 26 年度)



■ 平成 27 年 国立市公共施設保全計画より

市民芸術小ホールは昭和 62 年度に建設され、築後 28 年が経過しています。内部への漏水が複数箇所起きており、トップライトや空調の室外機置き場等に原因があると考えられます。腐食や漏水等の設備劣化が見られ、建物全体に劣化が顕在化し始めています。建物全体に老朽化が生じており、長寿命化に向けた大規模改修工事を行なう必要があります。

構造躯体の健全性評価、各部の劣化状況を踏まえ、残存耐用年数の想定年は 52 年となっています。

郷土文化館は平成 5 年度に建設され、築後 22 年が経過しています。屋根・屋上や外壁に劣化が見られます。展示室等の主な機能が地下階にあるので、漏水等の観察を計画的に行う必要があります。平成 23 年度に外部改修工事を実施しましたが、構造体調査の結果、中性化の進行が早いことが分かりました。平成 26 年度にも躯体を保護する外部改修工事を実施しました。

構造躯体の健全性評価、各部の劣化状況を踏まえ、残存耐用年数の想定年は 38 年となっています。

※保全計画では建築年でしたが、本書では年度表記としています。また、築後年数、残存耐用年数は 2015 年を基準としています。

■ その他社会教育施設の建物総合評価結果

平成 26 年度のその他社会教育施設の建物状況について評価を行いました。

		基本情報		①耐震化	②老朽化	③劣化状況	④バリアフリー対応							⑤環境対応			⑥維持管理		
																	床面積当たり (円/㎡)		
No.	施設名	建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	劣化 問診票 回答評価	車いす用 エレベーター※1	障がい者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	太陽光 発電の導入	自然エネルギー	屋上・壁面 緑化等	環境 対応設備※2	光熱水費	建物 管理委託費	各所 修繕費
1	市民芸術小ホール	昭和62	3,217	不要	28	△	○	○	○	○	○	○	×	○	△	0	78	0	
2	郷土文化館	平成5	2,182	不要	22	△	○	○	○	○	○	○	×	×	△	0	82	990	
3	古民家	平成2	137	不要	25	—	×	×	×	×	—	×	×	×	×	0	0	0	

記載例	③	○:劣化がみられないもの △:一部に劣化がみられるもの・不明 ×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの	④	○:実施済 △:一部実施・不明 ×:未実施 ー:該当なし	※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等 ※2 節水型便器、高効率照明器具、LED照明、ヒートポンプエアコン等 ※①の「ー」は耐震診断の結果耐震補強が不要な施設 「不要」は新耐震基準施設のため耐震診断不要な施設
	⑥の凡例	:用途平均値の1.4倍以上のもの			

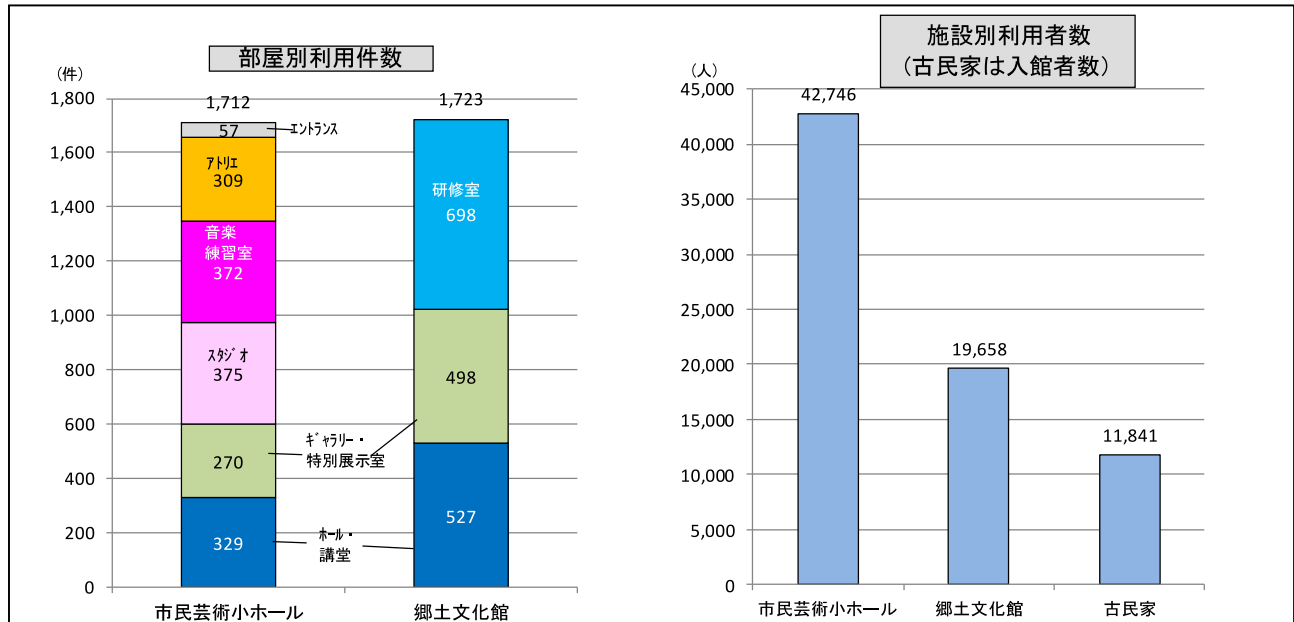
評価	パターンⅣ 今後 老朽化								
	・今後、老朽化が進行する ⇒今後老朽化対策の検討が必要になる施設								
該当施設	<table> <tr> <th>該当施設</th><th>建築年度</th></tr> <tr> <td>市民芸術小ホール</td><td>昭和62</td></tr> <tr> <td>郷土文化館</td><td>平成5</td></tr> <tr> <td>古民家</td><td>平成2</td></tr> </table> < 3 施設 >	該当施設	建築年度	市民芸術小ホール	昭和62	郷土文化館	平成5	古民家	平成2
該当施設	建築年度								
市民芸術小ホール	昭和62								
郷土文化館	平成5								
古民家	平成2								
コメント	・新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。								

② 利用状況

■ 年間利用件数・利用者数

平成26年度における各施設の利用件数合計は年間約3,400件、利用者数は約7.4万人です。ただ、市民芸術小ホールは設備更新工事の期間中（8月1日から11月30日まで）休館していたため、利用件数・利用者数ともに少なくなっています。

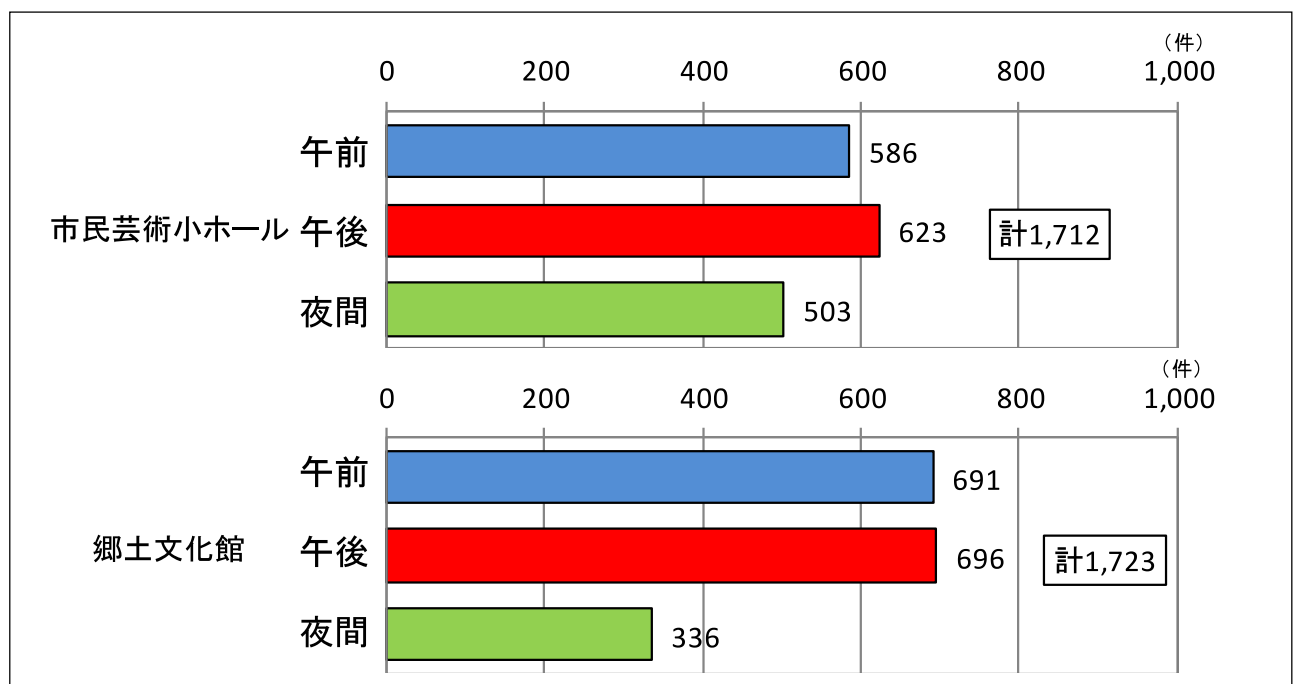
年間利用件数・年間利用者数（平成26年度）



■ 時間帯別利用状況

時間帯別利用状況を見ると、午前・午後に比べ、夜間の利用が少ないことが分かります。

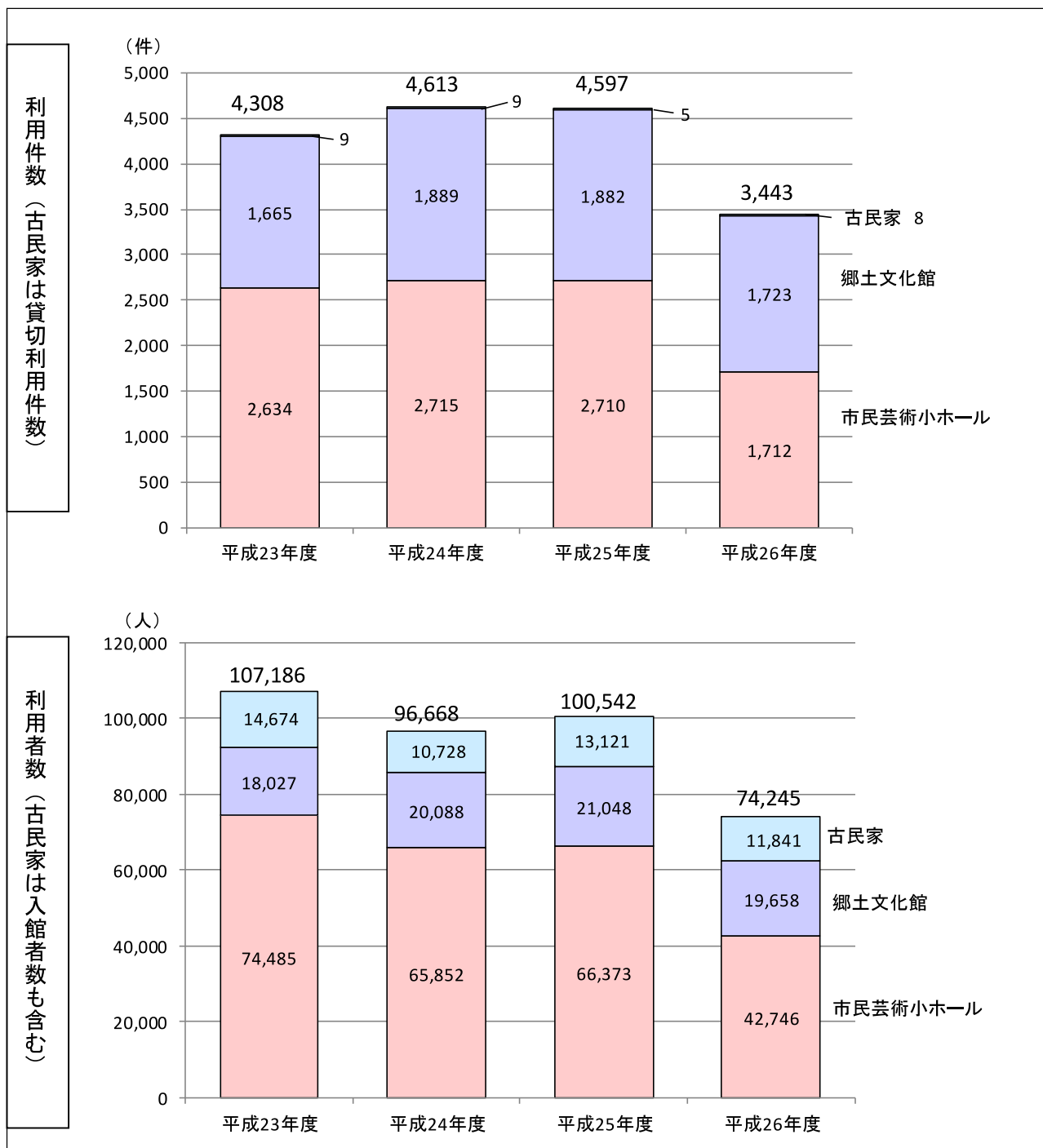
施設別・時間帯別・年間利用件数（平成26年度）



■ 利用推移

直近4年間の利用件数をみると、郷土文化館の貸切利用件数は平均1,800件程度、入館者数は平均2万人程度で推移しています。市民芸術小ホール利用件数は平均2,700件程度、利用者数は平均6.9万人程度で推移しています。平成26年度は設備更新工事の期間中(8月1日から11月30日まで)休館していたため、利用件数・利用者数ともに少なくなっています。古民家の貸切利用件数は平均8件程度、入館者数は平均1.3万人程度で推移しています。

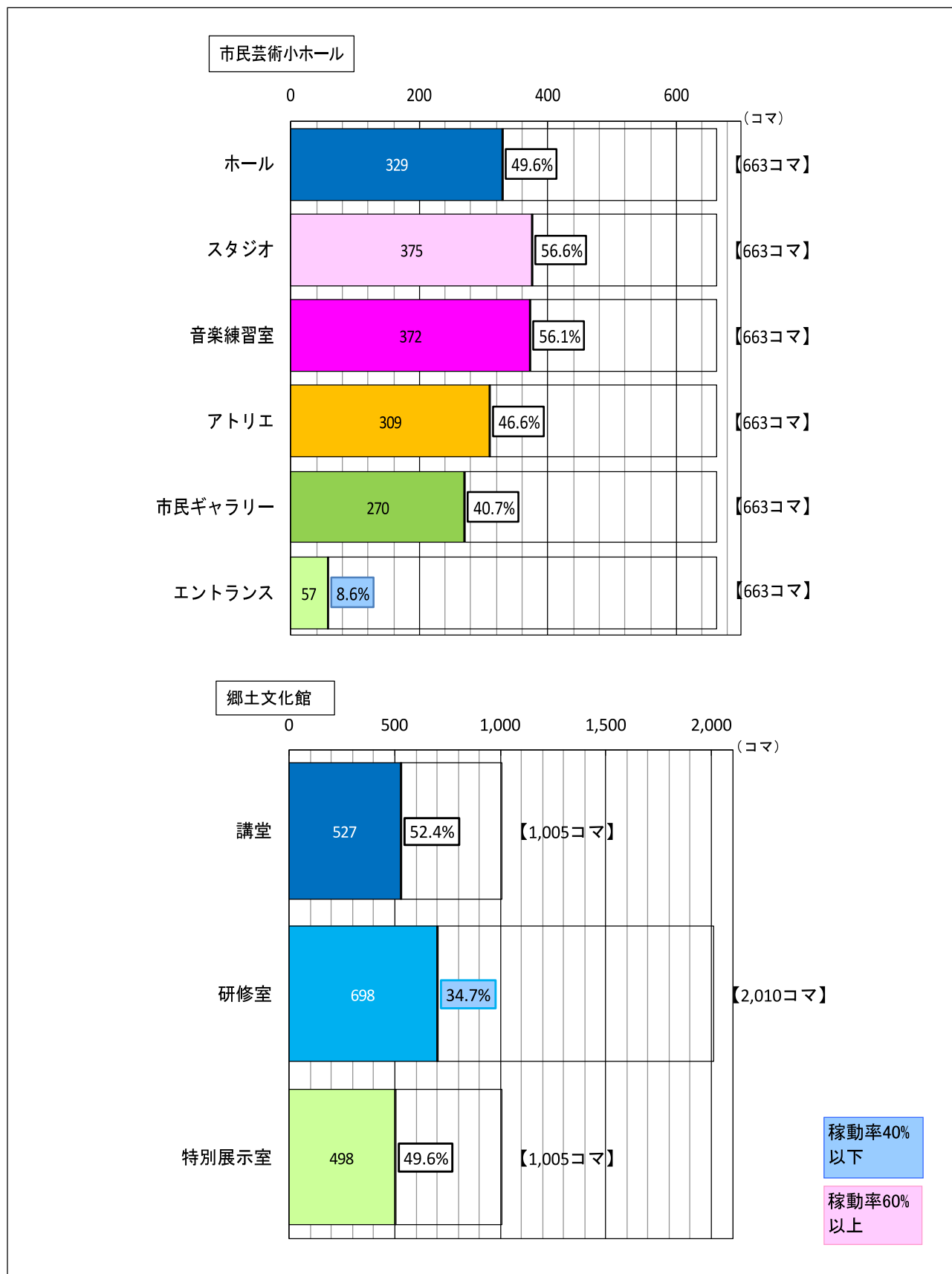
年間利用件数・利用者数の推移



■ 施設別稼働率

施設別の稼働率をみると、概ね 40%以上となっています。郷土文化館の研修室が 40%を割り込んでいます。

施設別稼働率（平成 26 年度）



③ 運営状況

市民芸術小ホール、郷土文化館、古民家の3施設は全て、指定管理者である公益財団法人くたち文化・スポーツ振興財団により運営されています。

運営人員（平成26年度）

	市民芸術小ホール	郷土文化館・古民家	合計
管理運営形態	指定管理	指定管理	
正規職員	2	2	4
嘱託員	7	2	9
嘱託員(学芸員)		3	3
合計	9	7	16

※正規職員には再任用職員を含む

④ コスト状況

その他社会教育施設の年間トータルコストは、2億3,138万円です。

年間トータルコストのうち、施設に係るコストが1,137万円（約5%）、事業運営に係るコストが4,586万円（約20%）、指定管理料が1億1,721万円（約51%）、減価償却相当額が5,694万円（約25%）となっています。

その他社会教育施設行政コスト計算書（平成26年度）

Ⅰ. 現金収支を伴うもの

（単位：千円）

【コストの部】		市民芸術小ホール	郷土文化館	古民家	合計
指定管理料		63,827	50,182	3,203	117,212
施設に係るコスト	修繕費	0	2,160	0	2,160
	光熱水費	0	0	0	0
	委託料	252	179	0	431
	土地借上料等	0	4,289	0	4,289
	市債利息償還金	26	1,063	0	1,089
	その他	3,398	0	0	3,398
施設に係るコスト		3,676	7,691	0	11,367
事業運営に係るコスト	職員人件費	0	0	0	0
	嘱託員等報酬	0	0	0	0
	臨時職員賃金	0	0	0	0
	委託料	0	1,926	0	1,926
	その他	21,885	22,050	0	43,935
事業運営に係るコスト		21,885	23,976	0	45,861
現金収支を伴うコスト 計		89,388	81,849	3,203	174,440

【収入の部】

分担金及び負担金	0	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	0
現金収入を伴う収益 計	0	0	0	0

Ⅱ. 現金収支を伴わないもの

【コストの部】

減価償却相当額	25,085	31,858	0	56,943
---------	--------	--------	---	--------

【収入の部】

収入未済額	0	0	0	0
-------	---	---	---	---

Ⅲ. 総括

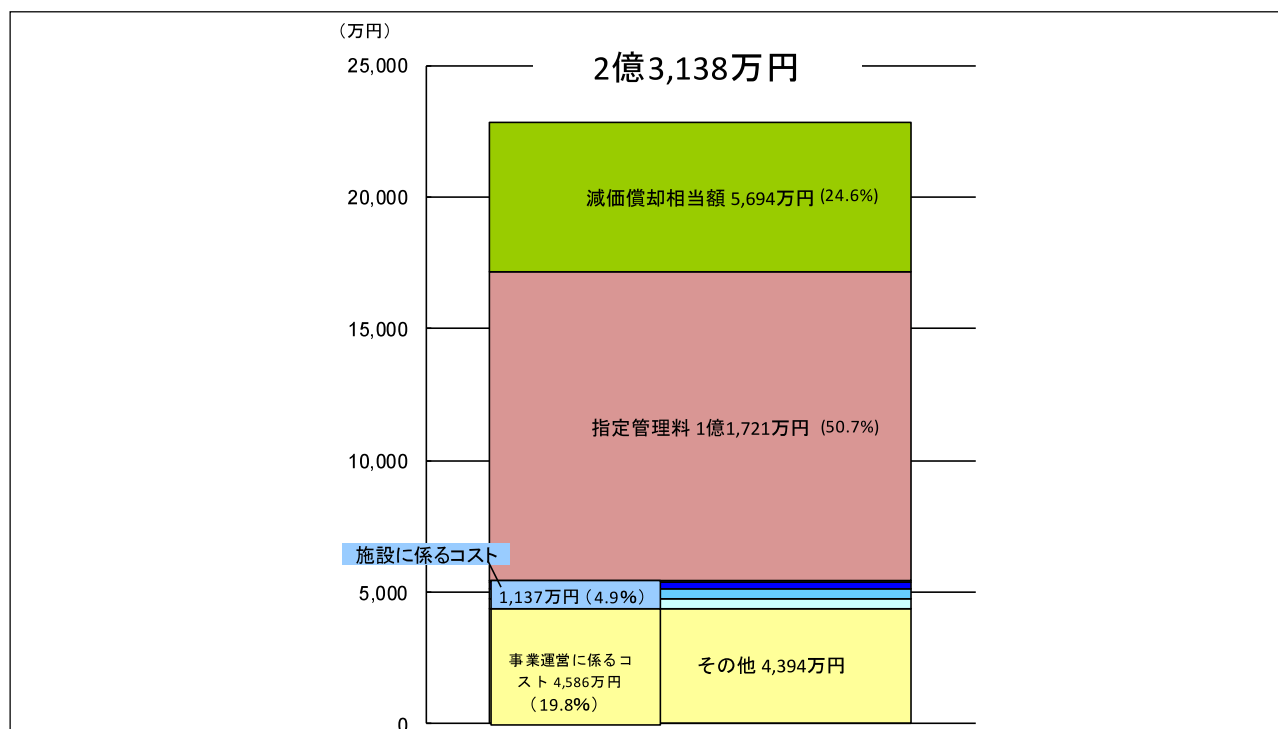
コストの部合計（トータルコスト）	114,473	113,707	3,203	231,383
収支差額（ネットコスト）	114,473	113,707	3,203	231,383

<参考データ>

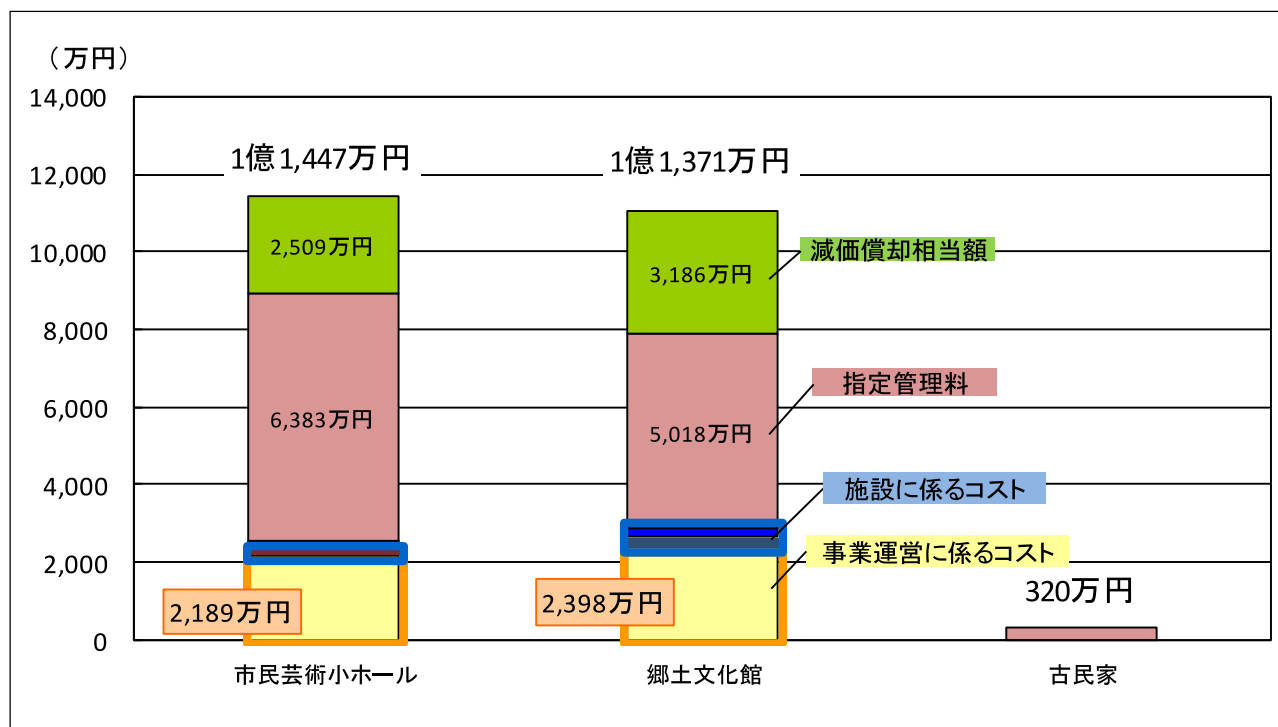
国・都支出金	2,500	0	0	2,500
その他の収入	63	0	0	63

(10) その他社会教育施設

その他社会教育施設トータルコスト（平成 26 年度）



施設別 その他社会教育施設トータルコスト（平成 26 年度）

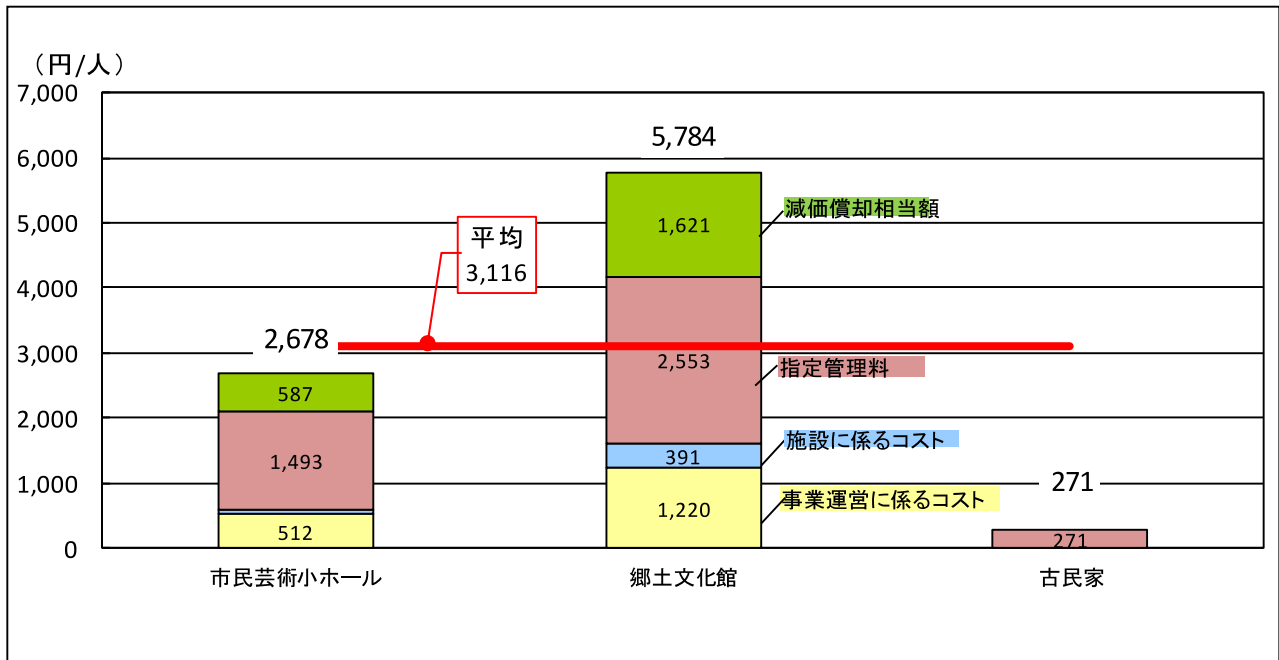


3) 評価・分析

■ 利用者 1 人あたりに係るコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者 1 人あたりに係るコストを算出すると、平均は 3,116 円/人です。

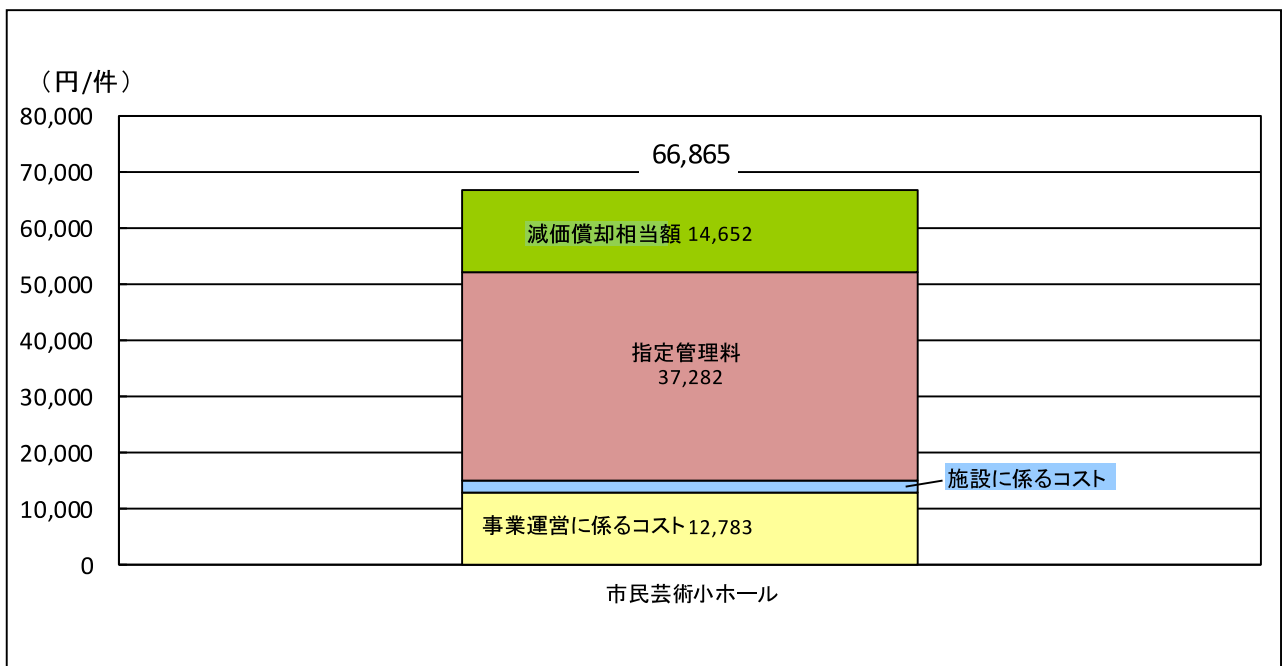
その他社会教育施設 利用者 1 人あたりに係るコスト（平成 26 年度）



■ 利用 1 件あたりに係るコスト

年間利用件数とトータルコストから利用 1 件あたりに係るコストを算出すると、約 6 万円 /件です。

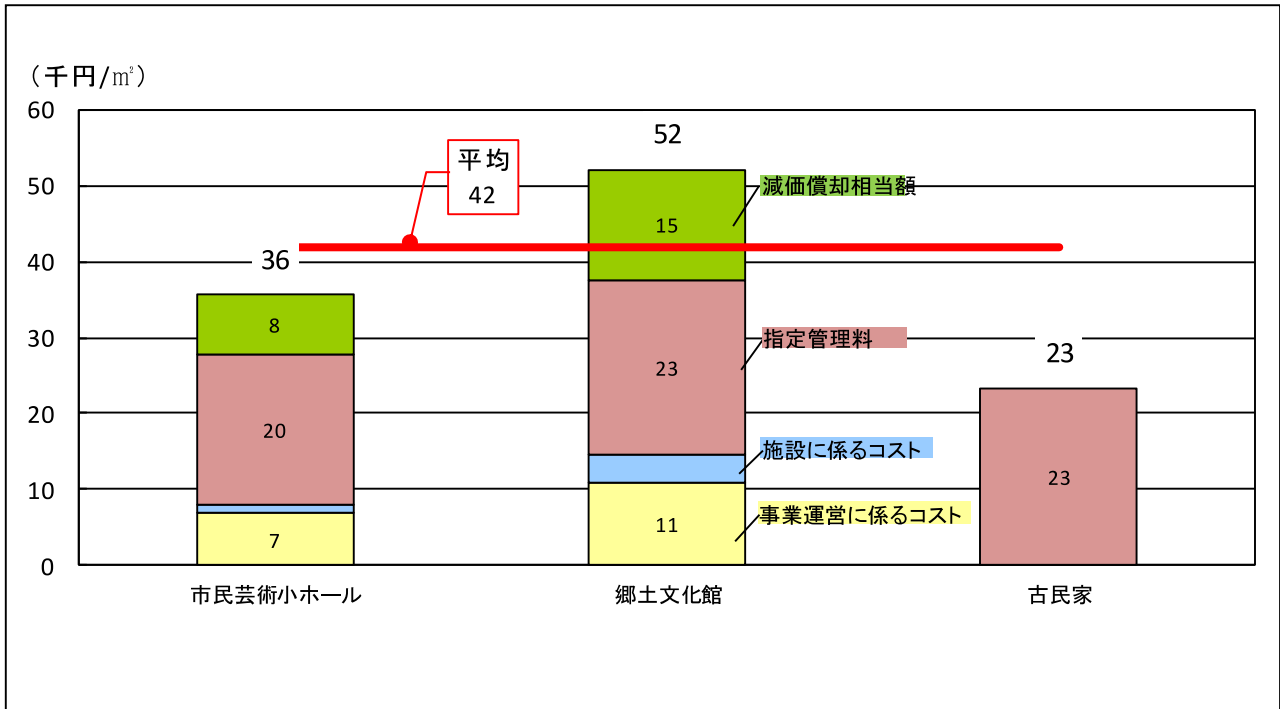
その他社会教育施設 利用 1 件あたりに係るコスト（平成 26 年度）



■ 床面積 1 m²あたりに係るコスト

床面積とトータルコストから床面積 1 m²あたりに係るコストを算出すると、平均は 42 千円/m²です。

その他社会教育施設 床面積 1 m²あたりに係るコスト（平成 26 年度）



4) 今後の検討の視点

- 市民芸術小ホールは開館から 25 年以上が経過し、施設・設備ともに老朽化が進んでいます。中長期的な計画に基づき、必要な改修を着実に実施していくことが求められています。
- 市民芸術小ホールの機械室・電気室等は、隣接する総合体育館と一体となっています。施設の大規模改修や更新を検討する際には、一緒に考える必要があります。
- 郷土文化館は有償借地となっています。施設のあり方を検討する際には、有償借地の解消という視点も必要です。
- 市民芸術小ホールや郷土文化館といった全市的な施設のあり方を検討する際には、類似機能を有する近隣市の施設や民間施設の活用や連携という視点も必要です。